

婦人関係資料シリーズ
一般資料 第7号

有能なホームメーカーとなるための工夫

|| 婦人問題連絡調整会議記録 ||

労働省婦人少年局

は し が き

この証録は、一九五〇年第三・四半期の事業として展開した「主婦の地位をたかめる啓蒙運動」の一環として行つた、中央婦人問題連絡調整会議の速記録ですが、家庭や社会の経済生活において婦人の実力をそだてることを目標として実施する第六回婦人週間にあたつて、参考資料として増刷することになりました。

経済生活における婦人の力を涵養するためには、家事の合理化、職業能力の向上等を図ることが必要と考えられますので、週間中の行事として全国で開催する婦人問題会議等における討議の際の参考にしていただきたいと思います。

一九五四年三月

労働省婦人少年局

一 会議の趣旨について

山川局長 まだみなさんお集りになつていませんが、時間ですので、始めさせていただきます。日本の主婦の負担が非常に重くて、それが結局婦人の進歩を妨げております。この婦人の進歩が妨げられているということは結局社会全体の進歩が妨げられているということになると思つたのでございます。婦人の負担が重いということは認められておりますが、それは当然なことだ、やむを得ないという考えが一般に支配しておりまして、まことにそういう問題については婦人自身の認識が非常に足りません。最近には女の方でも大分新しい意見を發表なさる方がございますが、もう少し前までは住いにつきましては着物や栄養の問題につきまして、男の方の側からいろいろ新しい意見が発表されて、女の方はむしろそれを受入れるのがよほど進歩的な方で、そんなことはとでもできないという方が多かつたくらいであります。よく男の側から、たとえは住いにいたしましたも、新しいことをやろうと言つても、奥さんの方に反対がある。着物にいたしましたも、奥さんの方がやはり世間ていを気にするとかいうことを聞くのでありますが、つまりそういう最も負担が重いことをなへいぜい不平を言いながら、少しもそれをなんとかしようという意欲のないといふところに、いまの問題がありますし、意欲があつても、なかなかいろいろな障害が多いといふことが、私どもの始終感ずる点でございます。何をやりますにも結局科学的に検討されることと、それを取上げて実行して行く意志がなければなりませんので、それをどういふふうに関人々々の生活におきまして、また社会的な方向にいたしましたも、取上げて行くか、実行して行くかといふことが、私どもの方に残されている問題でございます。今日お集り願いました先生方にも、また今まで御研究なさつていた方にも、私をちたいへん教えられておりますが、なおお忙しいお時間をお割き願いましたのは、今日伺つた御意見を私どもも十分紹介いたしまして、全国の取費室を通じて宣伝したり、また本日いらつしやる婦人団体の方にもよく御理解願ひまして、広めていただきたいという希望からでございます。少しでも婦人の家庭労働を

軽くし、婦人の家庭における地位を向上する方向に、私どもの仕事を進めて行きたいと思ひまして、たいへんお忙しい中に御迷惑を願ひました。よろしくお願ひいたします。

田中課長　ただ今局長から御挨拶申上げましたことのほかに、本日おいて願つた「婦人問題連絡調整会」というものがどういうものかということとを簡単に御説明させていただきました。婦人少年局は婦人と少年の労働関係につきましてその保護と地位の向上を一方の仕事としておりますが、また他方、とくに私どもの婦人課で担当いたしております婦人の地位の全般に亘つての向上ということを仕事にいたしております。その婦人や地位の向上のためには、各種の婦人問題、婦人の生活の実態の調査をいたしまして、出て参ります結果に則つて、啓蒙活動をいたしてあるわけでございます。さらに、実態調査から得られたところの結果によりまして、必要な措置を各方面にとるための方策を講ずるのでございます。その際婦人の問題に関連してありますところの政府機関、あるいは民間の団体などと連絡調整いたすような仕事をいたすわけでありまして、つまりそういう方面の方々に婦人の問題の所在を連絡したり。あるいはどういふ措置をとつていただいたらいいかということについて連絡申上げ、また個々の機関や団体の性質に応じて活動をしていただくように促進したり、団体の御協力をお願いしたりする。こういうことが婦人問題に關する連絡調整の仕事なのでございます。これは中央だけでなく、各都道府県と婦人少年局の取組まといふのがございまして、地方的な問題は地方の各機関や団体を通じて連絡調整する。

中央では中央の行政機関、あるいは団体などに、婦人の問題に關して連絡調整するという形をとつております。それで今日の会議はその会議の一つでございます。今年度に入りまして、四月に、いつも婦人週間という大きな全国的啓蒙活動をするのですが、今年には婦人週間の中心行事として中央では中央婦人問題会館をもち農村問題と家庭生活問題とを研慮しました。その会議の結果を参考として、その後七、八の三日には農村婦人問題をとりあげ、農村婦人の生活実態調査を実行します一方、農村婦人の地位の向上のための啓蒙活動をいたしました。その際また全国に、この連絡調整会をわつて啓蒙活動を有効に行つた

のでございます。ただいま第三四半期ですが、私どもが啓蒙活動といったしてありますのは、^一「家庭の主婦の地位を高めること」であります。そのために中央及び地方でこういう連絡調整の会談を用いております。主婦の地位を高める啓蒙運動は期間を定めます今後長く続けて行く必要がありますので地方へも基準的の一つの手引を流しますために、今回はとくに研究していらつしやいます諸先生方に御出席いただきまして、その記録をとらせていただきますと思っております。私どもは、このあとでもつと広く関係府庁、民間団体あるいは一般の方々をあつめて連絡調整の会談を前き、実質的に啓蒙運動を行うのに、今日の御意見を参考にさせていただくつもりであります。主婦の地位を向上させるためには、第一に家庭の民主化、家族関係の民主化ということを考えなければならぬのですが、そのためにはまた家事のもつと近代的なやり方、能率的なやり方を示す。そうしてもつと主婦自身が教養の高いものになつて、可能なゆきを個人にも社会に對してもするといふようなことを奨励したいと思つております。そういうわけで、どうぞ御意見を御聞かせ願いたいと存じます。

石井　ただ今局長と課長から今日の会談の趣旨を御説明申し上げましたが、家庭生活の合理化という中には精神的な面と申しますか、家族関係の問題と、物質的な面と申しますか、家事の能率化というような問題との両面があるわけでございまして、私ども婦人運動中に中央婦人問題会談の家庭生活委員会で各方面の専門家の方々にその両面から家庭生活の近代化ということを取上げて討議していただいたのでございまして。今日はその中の物質的な面と申しますか、家事の能率化を中心として、家庭生活の合理化ということについて具体的な問題をお話しいただきたいと存じているわけでございます。お手もとに差上げました御案内状にございます順序で研究発表をしていただきたいと存じます。なお先生方の御発表のあとで今度は一軒の家庭ではどの程度の生活改善が可能かという実地面について、またいろいろ討議をしていただくわけでございますが、その討議に主婦の代表という意味で、日本婦人権者同盟中央委員をしていらつしやる熊田さん、民主婦人連盟会員でいらつしやる桑原さんに御出席いただきました。それでは山本先生

衣服についていろいろ改善すべき点をお話願いたいと思います。

二、衣服について工夫

山本　ごく簡単というお話でございましたので、衣生活の中で大きな問題を三つ取上げて参ったのであります。大きな問題は最初にまず衣生活の設計ということではないかと思ひます。ここで皆様に断物を持ち教柄所持つていらつしやるかと伺つても、多分何枚というお返事がないと思ひますが、つい先達つても野門の人たちの中で何枚で暮しているかを聞きました。皆答へられませんでした。私が一番少いという人が、私は教がないからすぐ分るというので教えたのですけれども、それが恰が三枚、あ、透つた、透つた、五枚、羽織が大枚、あ、透つた、透つた、七枚というように、なか／＼はつきり持つてゐる教を知りません。ようやく人は手伝つてわりつて計算したら四十二枚という教が出ましたが、本人は大へん少い／＼とおつしやいますけれども、皆さんの単筒の中にどの位あるか存じません。私の計算では洋服だけで二重生活をしない場合、大体巾いている人が二十一、二枚で暮せます。それでも惨めではなく、まあアフターヌーン一枚、ドレッシングなブラウス一枚あるというふうな計算でございます。それからどうしてわ和服の二、三枚必要だ、そういう場合をとつて考えますと、二十八枚、二十一枚から二十八枚は用きが多くておかしいのであります。和服ではいろいろ、なバラエティがあるものです。結局二十八枚に上つた。最低二十一枚から二十八枚までが、計画的にあれば暮せるわけで、四十枚でもない／＼という方は計画がないというわけでございます。二十一枚というのは非常に少ないので、皆様もお歸りになつて聞へて、二十一枚の方はこの中にいらつしやらないと思ひますが、案外つまらないものを持つていたり、単筒の中にしまいこんであつて、なにかのときになつてはつぱり出してちよつと着てみるというのまで数えると、二十一枚には足りないで、たくさんあるということになると思ひます。ほんとうに計画をたてれば、二十一枚ということでは暮せる。で私どもの問題は計画的な衣生活、何枚で暮さうかという問題を考えなければいけ

ない、それはつまり持数がはつきりしているということ、それに対して年間計画ができていっているということ、そうしてたとえは夏が終わるときに、その夏は五枚で暮らしている、その中の一枚がすでにいたんでいたら、来夏の五月の末までには、夏の木綿のワンピースを新調しなければならぬということ、このままでできていなければいけないと思えますが、そういうことができてない、急に人呼ばれたときに困ったり、あるいは汗をかくて洗いきこなつたら着るものからかつたりということがあるのですが、それが基準さえはつきりしていれば、そういうことはないと思えます、そういうふうな計画をもつた生活の運営というのは、どうしてもなければなりません。それが大きな一つの問題でございます。これはその生活の中の問題になりますが、その衣生活の計画と申しますか、経営をどういうふうにして行くかという問題であります。二十一枚の中の一つの方であります。この図は今日でしかけのを持つて来たのであります。が（図を示す）至急の仕方が私の課で問題で、これがまず衣生活の計画の大きな部分なのでございます。これは私の方は農村が対象だものから、農村の人を調べたのでございまして、私とも扱っている人間にとつても同じだと思ふのですが、若い人の生活時間をとつてみますと、労働時間が九時間と五分、農村です。から長いのでしようが、それから睡眠時間が七時間と十八分、それから家事とか、休憩とか食事、自分が食事したり作ったり、それから風呂に入ったり、あつと新聞を読んだり、この時間が九時間と九分、パーセンテージにいたしますと、労働時間が四〇％、睡眠時間が三〇％、家事と休息の時間がやはり三〇％になります。外出社交の時間といふのは大分で、パーセントにもなりません、べつに毎日大分出掛けたり、おしゃべりをしていふのではなく、これは三週間の平均ですが、結局一日割りにして見ると、毎日六分の社交時間になるわけで、生活時間の方から行きますと、こういう割合が出るのでございます。それから今度はこの人の着物の持ち数を計算しますと、外出着というのが五二・九％、普段着が約二九％、それから肌着類（全体に適用するもの）が六・五％、労働着が約十二％、ここで私たちが計画を立てる上からこの問題を考えますと、労働着と普段着は、生活時間の上からは約七〇％を占めていゝから、それだけの

衣類がなければならぬ、ところが半分以上の五十二%を出費、これはいつ着るかという時間的には一%にもならない。労働時間に対する労働着というものはたつた三分の一にも足りない。こういう設計が非常に多いのでございます。私もはこの中に大きな問題あると眠んでおります。つまり着物が無い、着物が無いということとは、要するに労働着を含めた着衣着が無い。社交時間と外出着との不均から、着衣着がなくて、消耗がしやすいということになります。そのことを私とも問題にしているのです。都市の生活におきましてと同じことだと思つたのです。どこのお家に行つても、突然訪問すると奥さんがなか／＼出て来ないというのは、着物を着換えたり、前掛けをしめ直したりするといふようなことが起るわけでありまして、それはつまり家庭における生活時間というものに対する衣類の割合が悪いからさういふことが起るので、持ち数がないから足りない。着るものがないからとおつしやるけれども、この問題は割合が悪いといふことの方が大きい。箒笥の中にしまつて着ないものが多いから、人の前に出られない、当面の問題としてはいかにして外出着を着衣着に多行させるかといふ問題、人によつてはできない問題もあります。これをこわして行くことによつて計画を立てて行く、四十枚は合理的な二十枚にする。外出着から着衣着への移行の仕方というのが、大きな問題です。さらに進んでは着衣の生活に適した衣生活といふものが計画されなければならぬ。新しいものを作る場合にそれを考える。さういふような面がございます。それが衣生活と経営の問題です。

その次に考えられる問題は、至急をいかに至急的として行くかという問題、二十枚の値段にしてカピンからギリまでございます。この計画を立てられたものをいかにして運営して行くかという至急の問題、その場合にそれには製作の資材の費用といふものがあります。されどとしての費用の問題、手入れの簡便、手入れのきくものさかないもの、それからスペースの問題、これが大きいと沢山のスペースがいる。だからどうしてもお嫁入りには、箒笥一掃ではだめだといふような問題も出てくるわけなのです。さういふ問題も出て来る。資材と製作の方の特賣から数えて行きますと、和服というのは大変値段が高いといふこと

もありますが、それだけではなく非常にきれがある。私も弟竹翁、野叔翁を計算しましたが、今までの普通の野叔翁では八九ヤード約九ヤードいります。これを機械的にゆきよく工夫して、私どもが考えた四ヤードでできる。今までのみじかのような形のものなら二つでできます。それから和服、洋服だけでなく、これは私ども自分の研究室で前に研究したので、支那服、インド服、朝鮮服、それから和服というように計算しますと、——こまかい資料をもつて来てないので、つきりしませんが——和服の場合の長袖に対して洋服はトレインをひいたあのようなもの。インド服はサリー、あの認識にいたしまして、大体和服は洋服の四五倍、重さにして十倍、洋服の六百グラムに対して着物は大きく差が十一倍に近い重さがある。それから昔紋着の方を考えますと、和服の約半分で洋服ができ、洋服の半分で支那服ができ、それからインド服と申しますのは、ちやうど洋服と和服でござい、インド服も大分変つて参ります。まして、ツーピースのインド服ができておりますので、計算がめんどうなのですが、サリー式の場合は製作の方から言つて非常に簡単で、ほとんど何も縫いませんので、製作の時間としてはゼロです。和服と洋服は型紙を使うか使わないかということによつて、大変な違いになります。私どもは型紙のない洋服は考えないことにしています。しかし型紙を使つて洋服は、技術を要するので、これは熟練した人とそうでない人の比較がはつきりしませんが、ちよつとした、単衣ものですと和服よりかかります。給になりますと洋服より和服の方がかかります。そういろいろな点から考えて、結局材料の点から、製作の点から、手入れの点から、和服ということとは考えられないことになつてしまふのです。結局支那服とか洋服と、いうような形態がよいということになります。ただ一つ美観というような問題が落ちるので、すけれども、その点、私どもの研究所では答がはつきりしてないので、具体的に基準のきめようがないのであります。結局時間にもとれないし、非常に主観的で、私どもただ眺めて自然に考えていますから、なんとも感じないのであります。ほんとつとをえたら、あの大きなおたいこなんていうのは美ではないんじゃないかという考え方を持っているんです。結局せむしみたいは感じになるんじゃないかと考えてい

す。プロホーシヨンの点から、美しいと考えていませうが、そこいらに大きな問題があると思ひますが、そういう点でどれがいいということはおぼろげにありませんが、私どもとしては洋服を、たゞ何ヤール、和服を、たゞ何ヤールとか、製作の時間を研究しております。

それから手入れのやさしむつかしさや、手入れの時間も研究しております。それから入れぬの方から行きますと、両方と同じくらいに差があります。そんな面から和服、洋服の問題を考えまして、結局衣生活というものはそういうふうになくさん、生活設計の問題とその管理の問題、生活の運営の仕方、至りの問題、今までの衣生活はほとんどこの中のどれもが考えられていないので、どこから手をつけてもいいのではないかと考へております。

三 食物 につ いて の 工夫

石井 どうもありがとうございます。それでは次に香川先生から食生活についてお伺いしたいと思ひます。

香川 別に準備もいたしませんで参りましたが、食生活の改善ということとは昔からずいぶん言われておりますが、いつでも一時的で、直ぐ又元に戻つてしまひます。どうもこの食生活というものは全く判定のよすががないので、今まで農村の食生活の判定をいたします時に、まさるだけこちらが農村の生活に合わせて、なるべく科学的なものと話さないようにしてやつて行くような行き方をしたものですけれども、それを今度は思ひきつて、妥協しないで、科学的なセンスでやつて行くというようにして、二ヶ所してみたいと思ひます。今日の資料としては前に合いませんでした、そういう結果が大分出てきています。農村には農村で日常生活の中でできる程度のこと、例えば米を減らしようということ、あるいは又乳のあるところでは乳をのみましようというふうな、その土地でできる問題を一つだけポイントをハッキリ決め

てやつて行く。例えば米の問題では日本の二十二年に決めた理想案と申しますか……今の基準ではセロ
ろ、それがアメリカあたりですと三七%、それでこの前新潟に行つて学童のお弁当を調べますと一ニ〇%
つまりセロカロリーの飯を詰めて持つて来まして麵干が一つ、味噌漬が一つ全カロリーの一ニ〇%が米
だという形です。まあそういうひどい状態はかりではございませんが、今の学校給食のパンが小さいという
お母さん方があるが、あれは熱カロリーの二〇%がパンなので、米を沢山食べるといふことが日本人の理
想で、お金があれば先ず米を買う。それが栄養的でないのだといふことを田舎の人に知らせるといふこと
は随分苦勞でございます。

土地によつてジャガイモが沢山とれるが、ジャガイモはゆでてむかくないからおいしくない。ジャガイ
モなんか炊つてもつまらない。ジャガイモを食べたのでは妨きはないと思つてゐるが、ジャガイモのカロ
リーと飯のカロリーのとは、ジャガイモが二〇〇グラム、飯が一〇〇グラムと同じカロリーなんだといふ
ことを感じさせるのに骨が折れる。

栄養学といふものを、初めは分量とか食物から入つていきますが、しまいに熱心になつて来ますと、分
析表を見てくれるようになりましますから、そういうグループでやつてみて半斤を全りますと米がずい分減つ
たといふ報告が出まして子供がお米の代りに野菜サラダが好きになつて、今では野菜サラダをする時には
ウンとサラダを捲えて米を減して炊く、そうしていいといふことが漸く分つて米が減つて参りました。そう
いふように栄養的な飯を捲つて行くにしてゐる一番大きな欠陥のもので、効果が上がつて来るのを待つて行くとい
ふ行き方で栄養の方は進めていきます。

その前に、都会の人は、買物をする時には買物籠を持つて、町を買つてくるかといふことで栄養価が決
定する、献立を立てることよりも先ず買物にあるといふことで、そういう気持で、野菜を買つて来ると
いふほんとうの簡単なメドをやつてゐるのでございます。

それからその次に時計ですが、廊下にある時計を台所に向けて下さいといふことを始めました。大抵

坐敷や廊下にあつたりする時計を衣樂場に持つて来る。炊事時間などの並かかるか。その前に一つの芋が煮えるのに何分かかかるかということから考えねばならないと思います。実際に山のほうに行きますと、芋と大根と一緒に煮た時どうして芋がとけるのだろうかということがおかからぬのです。不思議なようですが――。いつも一緒にに入れてしまつて芋だけがとける。おかしいという。煮える時間の観念がない。大根を煮るのに何分、芋が何分とそれぞれ煮えるものに時間があるということを最初に練習する。そういう基本的練習というものを初めやるのです。そしてそれをつなぎ合せて料理一つ作るのにどの位の時間の間がかつて、それを図面で分けてどこからどこまでがこうというわけで炭火の使い方も上手になつて、一つの火で組合せて作業する。囲炉裏でたいしてしまひますと、一ペンをたいてそれで火が消えたらそれきりという生活ですが、その時間の間にどういふふうな時間を組合せて使つかということをやつて行く。それです。から仕事のくり廻しとか定時間とかいふものをずい分短縮することが出来る。これは農繁期の共同炊事に行きました時もよくさういうことがありますが、土地のおはあさんなんかもです。何んでも忙しい時は早くから起きてやればいいというので暗い中から起しに来る。生徒のほうは駄立が何時間という予定がありませんから、何時に馳給する。その前にどの位と感づていますが、おはあさんはそれをしよつちゆうやつていて、とにかく忙しいから早く起きればいいということとで予定が立たない。それから計量器ですが、これは初めはただカップ、スプーンだけをいつておりますが、田舎に行つて驚くことは「飯をたくのに水の分量があるのか」という向です。分りきつたことだからいいで計つてみたことがないということがかなりあります。何でも水をざつと入れて、あとから取つたり入れたりするということをやつぱりある。キッチンとカップで計つて炊くということについては、下手だからさうだろうとか馴れないからさうだろうという気がある。私は、それではサシや型紙を使わないで着物を縫つた場合に、一通で縫えたからその人が上手だと考えましようかという。やっぱり上手に縫うためには最初からサシを使つて型紙を使つたほうがいいというので、それでは料理の場合も上手にするためにはさうしまししようということとで説明して行く。そ

ういうことがなく、容れられないのですけれども、一年位それをやっておりますと自分の家の計量生活というものを発表するまでに着きつたわけですから、その次に参りました時に三キロの台秤があるから高いのに相当金を出して買ったと感心しましたら、大体秤代位取りかえしたと言う。それは買物をするのに今まで計らなかつたから平いぶん損な買物をしたのが、もう秤が出来ました。家に秤を買いましたと言うと目方が違つておりましたばずいぶん實際に遠つて来ると思ひます。それから秤と計量器を度つて調味の割合を教えますが、汁だけ出過ぎたとか、身と皮が合わなかつたとかいうことが段々なくなつて来ました。もう一つは温度計ですが、ドーナツの型を教えました時にドーナツをあの型の通りにしたけれども流れたというのです。それでは温度は？と言いますと、それは温度計がなかつたから計れなかつたというわけですから。

私は田舎の指導……というが、台所のことを申しますのに、いつも何もあり合せのホウで道具を校めないで出来るように……ということを前には考へた。それで冠立器がないと言へば、お箸を合せて皿の上で廻してあでさる、ということも昔は言ひましたが、この原はそれは全然言わないことにし、最初から約束して要るものは必ず買つて貰ひましょう。要らないものはみんな釣つて下さい。といつてあります。そのドーナツの時にも、温度計がなかつたらいいでしようと言ひました。その次からはこれは一七の度、これは一八の度、これは一九の度、というように温度が決つた。そうして、その副産物のように温度計を買ひに行つたら浴田寒暖計がありましたから買つて参りましたと言ふ。その寒暖計をお風呂の中に入れただけでその為には無駄な燃料、無駄な時間が多くなつて来たと言つてありましたが、そういう温度計とか容量、聖さ、それから栄養価といつたような一つのものを、しなそれらの料理の場所に出て来て行くということにしますと大抵メドがついて、それにあてはめて行くということが一一つの目標があるものですから、非常に楽しみになつて一生懸命やるわけです。それで今までよりも時間が早い。栄養価になつて行つた。おいしくなつた。というようにござりました。天日等を買ひました。その効果の判定ということが直ぐ出来るような状態にしてやつてゐるようでございます。そういうやり方を今のところでは一つの婦人の会合のような形にして月に一回ずつしております。男の人には割合に遠い時間があるらしい、一帯になつてお酒を飲むとか話をするとかいふことがあるが、女の人にはそういう時間が近いから日に一度をそういう日にしまして、勉強をしとて、自分達も発表いたします。自分達が作つた献立についての発表や、

レクリエーションなどもあります。一緒に歌を唄うとか踊のできる人は踊りを踊るとか合歌です。それから料理を携えてそれを味わうとか、月に一度主婦の会で料理を中心していますが、それが割合に長く続きました。もう大分飽いてやつています。現在では主婦と娘の二つの会に分けてやつていますが、料理とか食生活を中心として台所の改善というふうなことが盛になつて参りました。それでワマド、流し、調理台などの並べ方とか、白や棚の高さというふうなものに興味をもつて今まで位置を決して変えなかつたのが改めるようになって参りました。

そういうように食生活を中心としてすけれども今までの考文方を残して来ないように思われます。

冠婚葬祭などのような村の何かの盛しの場合には、そういうグループで仕事をし始めました。そうしますと、前に料理屋に頼んだり、村の芋煮などをやつたのと改へて、三かの一皿の替りて着んだ、今までは分置も全然予定がつかないで、阿でもいいから野菜を刻む人は専ら刻む、米を洗つ者は米を洗つ、いくらで水次から水に自分仕事連絡なしにやつて、しまいに野菜の刻んだのがくさつたとか、汁はけあまつたり、実だけあまつたり、ということが出来たが、今では初めから一人の食べる一回の分量というものをハッキリ決めてゐるから、その分量に従つて計画的にござるわけです。初めは大きいものを引受けた時には時間の点々と失敗もありましたが、改々やうて行くうちに至極的でもあるし、味とか料理の形が、今までのあり末りのものでない新しいものが入つて来たと、いうので非常に喜ばれ、割合に続いてやつております。その婦人達の協同婦人会のようなものを、小さくても持ちたいというので主婦が一生懸命になつて、費範的な台所や、いろいろ調理道具等の揃つた場所を収める計画をします。

食生活と申しましては、食事だけでなく生活全部に関連した計画をもつて、その計画の中心にはいつても科学的なハカリ、目安を置いてやつて行く、それによつてやつて行つた時の結果の判定が次々と出来て行くと、面白くやれるのではないかと思ひます。

何かとりとめのない食生活の改善というものを、どこで判定をするように持つて行つたらいいかということも、考へております。料理食等にはお金をかけるが日常の食事についてはあまり考へられていないようですが、それではいけないのであつて、毎日の食事にもつとワリワリを多くする必要があると思ひます。

今日あまりハッキリしたデータを持たずに参りましたがこの位で……。

四、住居についての工夫

石井 ありがとうございます。

駒田先生 住居についてどういう呉がもつと工夫され、改善されなければならぬかという呉についてお話をいただきたいと思ひます。

駒田 お見受けいたしますと、先生格の方ばかりで、私がお話するところはございませんが、十分ほどお話をさせていただきます。

私共が家に住んで見て思ひますことは、竹さ易い家、非常に使い勝手のいい家、それから本当に休養の出来る家、にしたいということでありませう。

私共は習慣にならされておりました家の中の仕事、すなわち炊事、洗濯、掃除、或は育児などの家事労働というものについてあまり考えることをしなかつたと思ひます。竹いて竹いて、身体がこなごなになるほどただ竹くということ、よい家庭の主婦であり、始からもううちの嫁はよく竹くと言われて来ましたが、一日中コマねずみのように竹けばよいというので、それがどんなに無駄なことをやつてゐるか、要らない努力をしているか、そういうことを考えようとしなかつたと思ひます。例へば台所なんか非常に上つたり下りたりするようになっておりました、出来た料理を、戸を開けて廊下に出て、それから障子をあげて食事をする処に運ぶ。そういうことを一向それがおかしいとも、えらい仕事とも考えずにやつて参りました。掃除にいたしましても、實際ホコリのたまる処の夏い今までの日本の家——例へば電燈の上とか戸棚の上、そのほか趣味的な意匠の爲にホコリのたまる処があらうこちらにある。

又、お掃除と関連いたしました、乗客をもてなすということに私共の家は重呉をおいておりました、いつ来るかわからないお客様のために、いつ来られてもいい様に座敷の中をきれいに掃除をし、床の間につやぶきんをかけ、お花を生け、机を置いてホコリのたまらないように、子供を入らせないようにするといふ

力をして参りました。それから洗濯にいたしましたも、泣いてる子供を背中に引っくりまして、しゃがんで盥でやつている。それがちつともおかしいことじやない。当り前のことと思つて不思議がらないでいる。割合に新しい建築屋さんが建てた家でも、洗濯場というふうに図面の上で図示されているところは極く少いのであります。毎日のお洗濯について、あちらこちらで一丈統計を取つて見ますと、大体一日ならして三、四十分位はしているけれども、そのことを取り上げようともせず、別に疑問も持たずにやつております。

私はこういうふうな、どんなに不便な家でも、ゆきにくくても、使い勝手が悪くても家庭婦人がただゆくということ、不自由さとか使いくさとかをカバーして来たと思つてあります。この家事労働を強化している原因にはいろいろな面があると思うのでありますけれども、それを住居だけに限りまして、それも家の中のことだけで考えて見ますと、オーストラリアに、住居内の平面計画が日常生活の機構に合っていない。例えば家事労働に必要な歩行を費やされている。こうも申しましたように台所と食事室の例をとつて見ましても、余計歩くところが出来ている。それをたつた十歩、歩くとこれを五歩余計に歩くと計算して見まして――これは一寸ずさんな計算でございますけれども――食事室と台所の間を五歩余計に歩くとしまして朝晩は十往復ずつ、晝が五回往復するということのように考えて見ますと、一日に二百五十歩歩いて、四歩を一間としますと一日に六十二間半、これを少しぬき算算式にいたしましたが一年に何里、家事労働に従事するのが大体三十年と考えると三百十六里余計な意味のない歩の方をしている。

これは例が少しへんでございますけれども、間取りが不合理なために全然意味のない歩き方をするわけでありまして、それを間取の上で台所と食事室を縮めればこのようは無駄がなくなつてしまふ。このことは、ただ台所と食事室をくつつけまして歩く線を短くして婦人の労働を少くするということだけに止まらず、家の台所というものが兎角家の隅の隅の隠れたところに持つて行かれたものを救うのであります。そしてそれは又主婦が一家の団らんの中から逸れているというようなこと、それを又救うことにも

なると思うのであります。と申しますのは、家族だけの食事の場合でも、来客のあつた場合でも、台所が隅にございまして、それを往復するのは主婦で、常に台所に立つて出て行くわけでありまして、蒸着いてみんなのグループに入り切れない。家族の暮の訪の中心となつて一緒に食事を送着いて出来ない。それは皆と一緒に乗しも時間をなくしますし、又時代に生きて行くことからも離れて行くようなことを救うのじゃないかと思うのであります。台所がそういうふうな隅に置かれましたのは、台所の仕事に携りやすきが非常に、階級的一段低い者がやつていたのでそれを一段低い処に持つて行つた。今般民階級は主婦が台所の用をやつてゐるのにわざと隅に持つて行く必要はないので、当然家族のいる処に持つて来ていゝと思うのであります。

それから二番目に、今度は一つの部屋の中での施設の配列が不完全の爲に勞働強化となる。これは台所の例を、とりますと、流し、調理台の場所、食器々具を置く場所、配膳台が仕事の順序に従つて配列されていない。そういうことが、何でもないことのようにですが手も足も無駄歩きをしたり入り乱れまして仕事が大サクサ、ゴタゴタになつてしまふ。これは毎日使う一寸した調味料一つのことを考えて見ましても、調理をしてゐる最中に味加減を直したいと思つてお鍋の蓋を取つたまゝで調味料を見ますと、醤油は床の上に、戸棚に砂糖、棚の上に塩という形で、手の届くところに置いてあればいいのにしやがんでマブクして、その間にこげつく。そういうような、ちよつとした置場所一つでも非常に仕事を煩瑣にしている。これは、押入れの問題などでも同様なことがいえると思ひます。「押し込み」という考え方でなく、それぞれの物の整理場所という考え方で、寝室にはふとんを入れる場所の押入れ、着物を着替へるところに衣類整理戸棚、食堂に食器戸棚というように、用途に依じて大きさ、深さ、高さが工夫されたらいいと思ひます。非常に使いにくい、不自然な施設、そういうものから来る家事勞働の強化、それから三番目には生理的要求負担の爲に生ずるもの、これは探究とか換氣、照明というものでございしますが、これは又台所の例をとつて見ますと、電氣、暖氣、小でも、客間等は平均よりも上廻つておりますのに、台所なんかは下廻つて

いる・非常に暗いところで仕事をする。あるいは手暗がりをする。そういうようなことも、電氣を毎日使つてゐる台所に重負をおくようにする。あるいは明るさを増す爲に台所の中は白く塗るというふうにするれば、労力強化がふせげる。それから第四番目には施設の缺如によるもの、これは都会なんかでガス、水道、電氣等が唯今はございますけれども、若しこれがなかったらどんなにか家事労力が強化されるかということとはわかり切つております。

もつと何でもないことで、洗濯の例を取つて見ましても、この頃はよくアメリカの話がこちらに入ります。直ぐ電氣洗濯機というようなことを言われておりますけれども、私はその前に、先ず、今私共がしゃがんで置でやつて、而も子供をおんぶしながらやつてゐるという、あんな労力から一歩前進させる必要があるのじゃないか。都会の家では大体台所の流しと洗面所とは別になつたようでございますけれども、もう一つ、立つて洗濯の出来る場所というものを造る必要があるのじゃないかと思ひます。無理な姿勢でしゃがんで置の水を引つくり返すという労力から解放されたら、これは毎日のことでございますので、相当になる。それで、家を建てます時にも、そろく洗濯場というものが必要な場所として示されるのがいいじゃないかと思ふのであります。それから次五番目に、施設の寸法が不適当な爲に起る場合、これはよく、台所の流しの高さが使う人の身体に合わないから非常に不便だとか、あるいはしゃがんで床の上でする流しというようなことを考えまして直ぐわかるのであります。一つ押入れの例をとつて見ましても、ふとん入れの押入れでございまして毎日重い物を出し入れするのでありますから出し入れし易い位置に中仕切りを持つて来る。床から四十センチ位上げたところが大体いいようでありませうけれども、それをもう少し狭つか機を造つて置いて、自由にその人の身体の立居振舞に樂なところに中仕切りが来てもいいような方法に押入れの中を仕切つて置けばいいのじゃないかということをお考へるのであります。それから六番目に、非常に掃除をやらなければならぬように建つてゐる家の建て方——不必要な機を造つて見たり飾りをつけたり、それから併せて生活様式の不合理的とか育児の問題、そういうようなことが家事労力

を強化している原因となつていゝと思ひます。このような家事勞作を強化している原因というものをよく追及しまして生活の合理化を図つて行くといふようなことをよく言うのであります。そうしますと、そういうように便利にしたら必ず食が、ゝるので……といふことをよく言われるのであります。それは私、若しもこれから家を建てる時にしましたら、仮に坪二万坪としますと、二十万坪あつて十坪の家を建てるというのが常識的になつておりますが、同じ十坪の家を、役立つ竹き易い家にする場合には、今までの生活を見まして、自分の生活から無駄だと思ふような部分を除いて行つて、その部分から浮いて来た金を働き易いような施設のほうに廻す、つまり予算の配分を考え直すといふことが必要じゃないかと思ふのであります。便利な家を建てても、そういうふうにして行けばそれほど費用がかゝむとは思わないのであります。例えば玄関の一坪を減らして浮かした二万坪でガスレンジを買ふとか、食堂と台所の間仕切りを取つてそれだけの費用を洗濯場を造る用にするとか、廊下を取つてその予算でシャワーを造るとか、床の間にきれいな砂壁を塗つたり、床柱を使うこと——坪二万坪としたらさつとそこはもつと金が掛つていゝと思ひますが、それを止めて、備えつけの整理ダンスといふように、予算のある中で無駄なものを取つて私共の毎日の生活に役立つようなところにふりかえて行くといふように考えて行きましたならば、私共の家を建てます場合にも、施設をよくすれば非常に金がかゝむといふようなことも解決されて行くのじゃないか。そういうふうな、自分の使い勝手のいい住居に重きを置いて行けばもう少し住居といふものが、私共が使ひ易い、住いゝいい住居になつて行くと考えていゝのであります。

五 家事の科学的な処理方法について

石井 ありがとうございました。それでは沼畑先生にどうぞお願いいたします。

沼畑 家事の科学的な処理方法について研究発表という大それたものではありません。ふだんから気の

ついたことを予定の十五分ぐらいの時間で申上げたいと思います。科学的な処理法というと、すぐ何かしら科学的な施設、あるいは器具がなければできない。それがまず一番先決問題だろうと誰しも考えますが私はその前に、婦人少年局でお出しになつた「主婦のはたらき」というリーフレットに書かれているような面がたいへん大事ではないかと思うのです。私は日ごろ科学的な家庭生活を処理する場合は、まず先し當つて家庭の管理に當つて「考えること」です。このリーフレットに仕事の工夫ということがありますけれども、これと一致する問題だと思ふのですが、考えるということ、ところが考えるだけではやはりなんといつても解決のつかない問題がありますから、そこで第二段として、今度は「学ぶこと」である。このリーフレットには教養を高めることとありますがこれがやはり大事なことです。これと同じことです。そして第三段目に「科学的な施設、あるいは能率的な器具の活用」をするという問題に入つた方が、現在のわれわれの家庭生活には合うのではないかと思ふのであります。なぜ考えるか、考えて行かなさやならんか、これは申すまでもなくわれわれの家庭生活というものは、ずいぶんなんと申しますか、伝統とか習慣とかそういうような慣性でやつてゐることが非常に多いと思ひます。例を燃料にとつて御説明申上げてみますと、燃料というのは燃えるものだから、燃えるだけ使うのだというような使用法が多いのではないかと思ひます。燃料を使う場合には考えて見ると、一体御飯を炊くために使う燃料はどの程度かかるかこれは各家庭で色々な燃料を比較して御覧になればわかる問題であります。またそれが御承知なかつたら現在ではこの方面の解説的ないろ／＼の本もありますから、それを御勉強なさつたらいいと思ひます。たとえばわれ／＼の實驗では、ガスならば一升、一四キロの御飯を炊く場合には、大体二百立方ぐらいで、そうしてそれは現在の料金では二円六十文ぐらい、あるいは薪を使うならば、四百グラムで二円見当である。また木炭ならば百五十グラムぐらいで三円、煉炭ならば二百グラム、二円、また電氣を使う場合は二百ワット時となつて、これは冬と夏は大変違いますけれども、冬の電力料金でございますと大体五円五十文ぐらいの見当になります。大体内容を考えて見ただけでも、一体めい／＼の家庭ではどの燃料を使

つたら一番経済的だというような、大よその見当もつくと思います。また少し内容的に立入つて、ガスを
使う場合は使用量が増すと幾らか安くなる。電気の場合は使用量が多くなると料金が高くなる。そういつ
たくわしい関係を知つておると使い方に科学性が加わつて参ります。なお燃料を使う場合に、一般に無関
心に使つておられますけれども、ガス及び木炭というふうな燃料が相当に高価なものになつてお
りますけれども、これは燃料を使つている家庭の台所で、本当に生かして使つていない、それならばどの
程度が生きて使えるか、どの程度が無駄になつていくかということを検討してみれば、燃料の性格がはつ
さりわかるのでよほど上手に使つても、ガスの持つております半分ぐらいしか利用されていないのであり
ます。それから本炭になりますと、約三割ぐらいであとの七十パーセントは不完全燃焼とか、こんろや
器具が悪いために使われている。薪の場合はもつとひどく、二十パーセントしか使つていない、八十パー
セントぐらいは暖炉やその他で無駄になつていく。それから電気は十分よく利用しましたけれども、電気で
もやはり六十パーセント。まだ普通の家庭では七十パーセントはむづかしい。そういつたように使うより
迷う方が多いということ、結局燃料をどんなに使つた方がいいかという、少くとも燃料を使うためには
この程度のことを一つ勉強して、學んで考へてみて、分らんことは勉強して、燃料の使い方を考へてい
ださいたい。そこで一例を申し上げますと、薪のかまどなんかでも今申し上げたように二十パーセント
ぐらいしか利用ができないが、しかしこれは全部の薪の火力を一つの鍋に利用する場合で、もしその迷
る八十パーセントを次の鍋に利用し、更にそのあとの余熱をお湯沸しに利用するという手段ができれば、
これは恐らく薪の五十パーセント以上の価値が出る。現にそういった方面に着眼したものがございまして、
私の方にも参つております。第三段階には能率的な、科学的な器具の活用ということになります。そこま
でのびくまにならば、われわれの家庭生活が科学化されて行かなければならない。これは今燃料を問題と
しました、たとえば電気の場合、家庭ではよく裸の電球などを平気で使つておりますが、その裸の電燈
と、並をかりた電灯などの程度の差があるかということがわかれば、おそらく裸の電灯などを使う人はな

いだろう。どんな筥でも筥を使うならば裸の電灯とくらべて一倍半、さらに筥が深くなればマキシマムが三倍くらいまでになる。そういうようなさめめて通俗なものですけれども、はつきり認識したならば、いやでも応でも合理化が行われて来ると思うのであります。

それから衣服の問題は山本さんからくわしくお話がありましたように、われわれの家庭は食乏でもずいぶん無駄な衣服の使い方をしていると思います。衣服については、私の理想から言えば、ほんとうにいい地質や色合いこれをめいめいの生活に則した形に作って利用するならば、非常に活用できる。燃料の場合には二十パーセントか三十パーセント、或は五十パーセントが最大だとい、ましたが、衣服などはずいぶん活用されてないところが多いと思います。結局襟袂のあやまり、衣服構成が不完全であるために、着られないことができて来ると思う。ほんとうにいい構成をもつて作つたならば、百パーセント利用できると思う。われわれ食乏なものは、極力そういう方面の地質、材料のえらび方などを勉強する必要がある。服地ならばどんな見当でやればいい、仕立てる場合にはどんなに仕立てたらい、か、あるいはどんな構成がい、か、さらにその取扱方、毎日の、一日の取扱いは、洗濯の仕方、あるいは虫に喰われまい、か、あるいは、か、と検討されておりますから、こういう方面を従来の慣性だけの仕方ではなく、ほんとうにいい方法を一つ考へるために學んで着実に実行する場合には、ずつとく、衣服の活用性も高まつて来るだろうと思うのです。そうしてたとえば洗濯につきましても、洗濯剤などは最近是非常にいい、科学的な、ほんとうに役立つものが出ておりますから、これらのことについて一つ勉強していただきたい。あるいはいろいろ各方面から書いておる舊書や新聞やラジオなどで紹介しております。それによつて教養を身につける。

それから最後に施設の問題に触れますと、再々この家庭の主婦の負担が非常に多きに過ぎるということが問題になりますが、これには、結局施設の問題があると思います。この同私、進駐軍の家庭に住いの様子を見に行つたのですが、台所に入つて先づ感じたことは、これならば奥さんもちろんで台所仕事

に趣味をもつてやるだろう。旦那さんでも子供さんでも、あんな立派な洗濯場ならば、争つてやるだろう。主婦だけに負担をかけるというのは、主婦でなければできないという施設の向題が非常にあると思う。現に私自身も学校では洗濯をします。教えている関係もありますが、学校では少しも苦にならずに洗濯をします。なぜかという、学校には非常にいい施設がある。ワイシャツを二三枚洗濯機械にほうり込んで、電氣を通しておけばいい。そうでないにしても洗濯場に立つと、たらいがあり、洗濯板、石けん、糊があるというふうに、一向めずらいがありませんから、男の人でも簡単に洗濯ができる。ところが家庭だとかなかなかできない。というのはたらいがどこか、洗濯板は、石けんは、ブラシはというふうに一々探さなければならぬ。これがやつかいなのです。そういう意味でこの施設をよくするということは、結局主婦の負担を軽減して、めいめいの負担をはつきりさせる。例をとりますというと、ミシンなども、私は実はミシンを踏みます。それから故障が起るといふと直すのですけれども、自分で針を持つてやるということばかりと度で、他から見てもおかしいだろうと思つてやりません。ミシンならばやりますが例の電氣パンなども男でも喜んで実験をやる。電氣で御飯を炊く、釜の上に機械を入れて炊く。そういうものならば結局台所仕事であるけれども、男でもやる。少しも失礼でなく喜んでやるだろう。そういう意味において、良い器具を入れようとしても、今直ぐとは参りません。けれども洗濯のことにつきましては、手でもつてする洗濯と、機械でする洗濯と、どの程度違うか、手でする洗濯を一回やるのと、これは山本さんや駒田さんたちの分野になると思ひますけれども、私の見当では大体一時間に百五十乃至二百カロリーぐらの熱量があるこの百五十乃至二百カロリーの熱量を、今人間の食糧から出すとなると、さつま芋では私の計算では約百三十度で、百五十カロリーの熱量が出る。一貫目五十円のさつま芋とするとい月七八十度になる。ところが芋ばかり喰べていてはわれわれの生活ができないから、飯に一月二千円の食費、これは非常に切りつめた経済の食費と思ひますが、二千円というとい月七十円、二千カロリーの熱量を出すすると百五十カロリーは五円以上、一時間の洗濯の仕事は食糧という燃料を假えれば五円以上かかる。とこ

ろが二百ワットの洗濯機械を使いますと、人間のする一時間は十五分でできます。その十五分の電力量は二百ワットの四分の一ですから、五十ワット時ということになります。でいま一キロワット時を八円の電力料金と計算いたしますと、大体四十銭ということになります。ですから結局手でする――食糧をエネルギーとする場合の十分の一以下でできます。一時間の洗濯労働というのは相当のもので、それが三十二銭というような金額でできるといふようなことを考えて見ると、どうしてもやはり主婦の家庭における労力を軽減するには、少くとも行く／＼はこういうったものを設備しなければならぬ。現在は非常に高価なものです。けれども、これに対してはいろいろと研究して――現に私の方にもいろいろの洗濯機械が来ておりますが、そのうちに簡単に解決できるだろうと想像しております。これは主婦の方も相当に協力してもらつて、なんでも従来の習慣通りやるような考えを一掃して、そういう時代遅れの考えを一掃して、一つ考える家庭管理、学ば家庭科学、積極的にいい施設を取り入れるという、この考へる生活は今すぐといつてもできないけれども、この方面に関心をお持ちになつて、啓蒙運動をひとつやつていただきたい。大変難題なお話でございましたが、このくらいで――

六 労働 医学上から見た家事労働

石井 沼畑先生から大変有益なお話を伺いましたが、次に「労働医学上から見た家事労働」について、勝木先生からお話をいただきましたと思います。唯今洗濯の問題から食糧のカロリーに換算すればとお話などを伺いましたけれども、洗濯をはじめ種々の家事労働について、どのくらいのエネルギーが消耗されるかというような点や、またやり方によつて疲労を最小限にいくとめることができるはずだというような点についてお話をいただいたらと思います。

勝木 私御趣意に副うようなお話ができますかどうか、あまりこまかいことについては今日持つて参りませんでしたので、大まかな話になると思いますが、家事労働の合理化というようになことを考えますと、

どうしても家事労働というものは、家事労働の範囲内だけで考えることができないものがあると思います。が、と申しますのは、家事労働の内容なり量なりというものは、生活様式というものとつながって、労働の合理化ということは同時に生活様式が高くなつて行くことを伴わなければ合理化ができないというような点があると思います。これは衣食住はもちろんのことでありますが、そのほかのこの生活環境一般というものを含めて、生活様式全般というものの勤さ、家事労働の範囲ということがつながつて来るといふように思います。ですからどうしてもこれだけの考えの中を持って行かないと、正しい方向に問題をもちて行くことができないように思います。

従つてまた家事労働を合理化する場合に、それを家事労働として合理化して行くそのうちの一部分のものは、やはりこれを社会的な慣習の形にまわしてゆくということによつて、効率もうんと上るし、廣もうんと高くなるというふうなこともあり得ると思います。その辺の関連を考えながら全体としての勤さを考慮するということになつて行くのではないかと思います。

しかしまたもちろんそう言ひましても、現在の家庭の家事労働というものの中にも、その中だけで合理化すべき分量というものは、もちろんたくさんあると思いますが、家事労働というものを見過りまして、それを一般に職業的な労働として行われております労働とくらべて見ますと、この家事労働をする人が真正面からこれを作業と考へてやつてゐるかどうか、この点にかなり大きい差があるのではないかと思ふのであります。ほんとうに家事作業というものを自分の仕事だと考へて、真正面から取組む形になつてゐるかどうかということ、これはもちろん家事労働というものの、性格からくるものでありましようけれども、そういう点がこの普通の職業的な労働と非常に大きな差があるという気がいたします。即ち家事労働の合理化を妨げるというか、合理化が進まない一つの大きな原因であるという気がするのであります。例えば例を上げて見ますと、普通の仕事であれば大かかれ少なかれ計画性というものがあつて、一日にどれだけの仕事をしなければならぬかとそれだけが自分の仕事であるかというふうな点がある程度あります。ところが

が、家事労働の場合にこれを計画してやるということは、まあ今これらのいろいろ運動の標語の中にも大きくお取上げになつておりますけれども、実際の状態で一番でき得ないという気がするのであります。一年に自分の家として、主婦がどれだけの仕事を自分ができるということをはつきり考えるという程度が比較的少い。また一日にそれのどれだけをこなして行くかということを経算することが非常に少い。これはもちろん家事作業というものがいろいろの事情で浮動して行く性質をもっておりますし、また家庭の中の人あるいは家庭外の人からいろいろ妨げられて、計画通りに行かないという特性はありますけれども、それにしてもとにかく計画ということが非常にない。これが十分でないために、そうして仕事が多忙に多いということが、絶えず頭に来ておるために、折に触れて一種の仕事に圧迫されているという感じが、家庭の主婦には非常に起つて来るのではないか、家事の場合において、肉体的な疲労というような面もあります。精神の意味の疲労、これも相当大きな要素として考えられなければならぬ面もあります。そういう点にもやはり計画性がない。あるいは計画が立ちにくいというようなことが、非常に陶酔をもっているものではないかと思ひます。こういうことが普通の職業的な労働というものと非常に要素が違ふという気がします。

私も普通の労働について考えます場合には、仕事をする場所の条件ということをもいつでも非常に大きく考えるのであります。家庭労働の場合には、家事労働をする場所というものを、仕事をする場所として考えられるということが非常に多いように思ひます。これはとくに日本の家庭の家事労働というものを考えますと、足場が非常に悪いということがあると思ひます。床の高さがいろいろに家の中で非常に違ふのであります。あるいはまた下駄をはいたりしなければならぬ、またぬぐというふうな足場が悪いこともありませう。

それからまた作業面、ゆれ／＼の方で作業面といつていますが、たとえばテーブルで仕事をすれば、デ

「フルが作業面、坐つてものを縫うときには膝の上が作業面になるのですが、その作業面が日本の家庭の家事労働の場合には非常に動くのであります。坐つてしたり立つてしたり、しかも非常にバリエーションの多い仕事が行次いで来るような性質の家事労働の場合に、始終作業面が変わるということは、これは身体の動作の上からみれば、大抵身体を使うのは、身体の重心を動かしている。一番人間の動作の上で能力を余計使うのは、上下に重心を動かす、ということではあります。これが日本の家庭の主婦の労働を重くしており、原因になつていゝのであります。そういう事が工場などでは絶対に行はれない仕事のやり方で家庭の中だけでしかない、こんな作業面の変動するということ、いろいろな仕事というのは、普通には少いわけですが、家庭労働ではそういうようなことが普通のことになつていゝという様な面があると思ひます。こういうような点を見ても、本格的にそれを仕事として正面から取組んで行くような氣もちにならないという、これは言い過ぎがあるかもしれませんが、そういうことになつております。

この暮でございましたが婦人少年局のお手伝をして、いろいろ婦人の生活時間の調査をしましたが、その中で労働者の家庭で主婦の家事労働について調べました中で二、三感じましたことを申し上げます。大體調べましたなかで平均家族が四、五人くらいという労働者の家庭では、主婦の労働時間は大體、家事労働時間が一日十時間ぐらい、毎日の旅子を見ますと非常に睡眠時間が浮動しております。睡眠時間が一定してゐない、これを職業をまつて働いてゐる人と主婦と非常に違ふ点です。しかもこの睡眠時間の動きというものと、家事労働時間との關係を調べて見ますと、西方の國に非常に高い相違がある。家事労働が多くなると睡眠時間が減る。睡眠時間が多い人は家事労働が少いというふうな、非常に相違があるのであります。これは先刻申しました規則性が無い、ある意味では計画性が無いということともつながつておりますが、これは主婦自身の意思ではなく、外部からこういうふうな動かしされる、主人の都合なり、子供の都合なり、

あるいはそのほかの家庭からの影響なり、いろんなものがあつて、動かされるといふ面があります。また一方主婦自身に日常の生活についての計画性が少いということが影響してあります。いずれにしても非常に浮動した生活ということが一つ、で、その内容で見ますと炊事が大体三十パーセントぐらい、これは大体において日本では、やはり炊事の全体の中で占める時間的な割合というものは、こういう形になつておるのではないかと思はれます。裁縫がそれについて二十パーセント、洗濯掃除と云うようなものが七、八パーセントから十パーセントぐらいまで、育児は子守、授乳とかいろいろ、状態によつて違います。この四、五人の家庭を平均して調べますと、育児関係を合せて全部で十四、五パーセントぐらいになつてゐる。こういう点からも、それから実際に仕事に使われるエネルギーという面から見ても、炊事作業が一番大きな條件になつてゐる。疲労を少くする合理化の面から見ても、肉体的な面から考えれば、炊事のエネルギーが一番大きいということを言つていゝのではないかというように思われます。これはもちろん平均的な話で人によつては違います。

学校からもう一つ主婦の場合は平日と休みの場合の差がほとんどない。これが非常に主婦以外の人と違ふ点でこれがやはり主婦を苦しくする一つの原因ではないかと思ひます。工場などの場合ですと日常の疲れが休日で相当休まるわけですが、肉体的にも精神的にも休日の意味というものは非常に大きい。主婦にはそれが無い。われわれの活動というものはどうしても一定のリズムを持つときに合が、いゝのですが、主婦にはそれが無い。年中だらだらと、のべつに仕事があつて休む日がない。これが主婦を苦しくする大きな原因であります。主婦の疲労を少くしようとするれば、むづかしい問題ですが、こういう点をなんとかしなければならぬというふうな気がいたします。

子供の数との関係ですが、子供の少ない婦人と三人子供を持つてゐる婦人とは、大体一日に二時間ぐらいの労働時間の違いがあります。それもうんと多数の家庭を調べればまた違ふかもしれません。

われわれの数字ではそのようであります。多少奇異に思われることは、主婦以外に家庭作業を手伝つてくれる女の人があつた場合に、大いに助かるかどうかということですが、これは時間の上には現れて来ない。そこで手伝う人があつても割合にそれほど主婦の負担が、労働時間が減つていない。これは内容まで調べれば多少違ふかもしれませんが時間の上にはこういうことがない。これに對しても多少以前からいろいろ調べておりましたが時代が違へばいろいろ違ひますから一概に言えませんが、新潟縣、愛知縣あたりの農村をいろいろ調べたのをくらべて見ますと、もちろん農村では農閑期は家事作業が極端に圧縮されて、普通の形ではないわけでございますが、農閑期が比較的都会の狀態に並くなつておる。こういうような考えで農閑期の方をとつて、家族人員も大体同じくらいの五人前後という数値をとつて調べて見ますと、今申しましたように都会の労働者の家庭の家事労働の時間というのは六百分、十時間前後というものになります。が農村の場合では農閑期のものが大体八百分ぐらい、これはもちろん八百分というのは非常に多いということになります。が、一人でやつてゐるのではありません。大てい農家ではお嫁さんとお母さんがいるとか、主婦がかなりの年輩になれば若い娘さんもある。大体四、五人の家庭だと家事をするのは二人でやつてゐます。主婦だけだといひますと、大体四百五十分ぐらいですから七時間あまりということになります。そういったしますと農村の方の主婦が都会の主婦より幾分見えますがそうではない。そのほか一日三時間くらい農業労働をやつておりますから、合計してやつぱり時間的には大した差がないわけでありまして、日々の内容は多少違つてますが、炊事とか洗濯とかいうものの時間的な割合はあまり変らない。時間的な要は割合に變つておりません。裁縫などはこれはそのととのいろいろな事情がありますのでこの調べでは多くあります。が、一概にそうだとばかり言えませんが、大家族ではうんと裁縫の多い場合があります。比較的くらべやすい炊事だけをとりとてみますと、この東京附近の労働者の家庭で百八十分、一日三時間の炊事

作業をやっておりますのに、農村の四、五人の家庭の炊事時間は三百十分、五時間というふうに大きな数字が現われております。これは二人をやつておるといふわけですが、三百十分いる。それでは農村の食事が非常にいいかという、決してそうではない。食事の質は劣つていふくらいに程度であります。このひらきはさつき沼畑さんからお話がありましたように、設備の問題も非常に大きな原因となつております。この炊事の時間の中の三分の一強、大体四割近いものは火を燃やす時間になつております。こういうことからだけでも設備がよくないということがよく分るに影響しておることともわかりますが、この場合にもわかりますように人が二人がかつてもあんまり効率が上がつておらない。この辺が家事作業のやり方というものの、普遍の工場などの作業と違ふところで二人か、ればそれだけ余計でさるというものではない。一人々々の負担の軽減にはならないというように思ひます。しかしながらこまかい点になりますと問題がいろいろあるかと思ひますが、あまり時間がかゝりますからこのくらいで……

七、グループ活動による生活合理化についての実例

石井 ありがとうございます。では、次に友の会の桐淵さんからお話願いたいと思います。友の会は衣食住全般に亘って御工夫なさっておいでになりました。今聞いていらつしやる展覧会にいろいろ参考になることがあると私共の課の者が申しております。いろいろお話願いたいものがございしますが友の会では、個人々々が工夫するというようなことと並行して、グループ活動とでも申しますか………会員の間で協同して生活合理化ということをおす、めになつていらしやるようでございますから、そういう面のお話を実例を挙げてお話して頂いたら大変参考になると思いますので、その点についてお願いいたします。

桐淵 グループ活動による生活合理化についてということでございますが、それが全体の中でのグループの活動と関連があるものでございますから、初めに簡単に全体のことを少し申上げたいと思います。

私共がどういうわけで家庭生活のことを励んでおりますか、その気持はほんとうに皆さんもお考えになつていらつしやると思います。家庭生活のことがすべての原動力になるので、本当に新しい日本を建設する基礎工事でもあるように考えられまして、私共会員はその気持でこの面の研究をし、又実践をし、それを以て社会のお役に立つて行きたいという気持で励んでいくわけでございます。友の会は今全国に一五七ほどございまして、会員は九、一〇〇人ばかりでございますが、東京にや大阪があつて各地友の会の連絡に當っているわけでございます。各一ツツ々の友の会に総リーダーがありまして、その下に方を分れ最寄りに分れるというように、地域的に分けておりまして、方面リーダー、最寄りリーダーというのがある。つて会の仕事をすすめているわけでございます。それから又家庭生活の問題の點には、例えば衣のグループのリーダー、住のリーダー、食、家計というようなりリーダーがありまして、研究会を申くというようなことによつて運営をして行つていくわけでございます。衣食住、家計などについて研究し、研究会でまとめたものをとつて講習会を開いたり、今度のような展覧会を通じて私共会員の生活を高めると同時に周

りにも働きかけるといふやり方でございまして、今丁度二十周年になりますのでその記念として展覧会を計画して、一組を東京でもう一組を大阪でやりまして、各地に廻すことになつてゐるわけでございます。それも二十年の私共の生活の中から作り出すことが出来たということを入夜に有難いことに思つております。全国的に今計画しておりますことはその展覧会のこと。それから十二月には毎年家計の会をいたします。家計簿をみんなつけること。周りにてもそれをお奨めしてゐるようなわけでございます。

今いろいろ農村のお話もございしましたけれども、時に農村の文化を高める運動というのをずっと前から東北にはやつておりましたけれども、一昨年からは全国にやることに致しまして、農繁期を利用して自由学園の生徒なども手伝ひまして農村セツルメントを全国に二十三ヶ所設けまして、農繁期の衣食住の合理化についての仕事をいたしております。こんなわけでその一つ々々の友の会の働きが出来てくるわけでございますが、一つ一つの友の会では、例えば東京友の会の例でございますと、さっき申し上げましたように本部に衣食住、家計の研究會が毎月一回ございまして、それには各方面、又出られるところは最寄りから、それらの代表者が出て来まして、そこでみんながいろいろ物を持ち寄つたことによつて研究をいたしておりますが、最寄りというのは本当の隣り近所の會員が五人から十人位までの単位でございまして、そこはまあ生活の実験の場所になつてゐるわけでございます。本部の研究會でいろいろ研究されたことを最寄りで実際にやつて見る、そうしてそれを又本部の研究會に持つて行くといふやうなことになつております。例えば先程からいろいろお話が出ておりますように、主婦の一日の時間ほとんど工合に最といふ、便いをするか、各自がそれぐしたものを持つて集まる。それから又家計の問題なども食べるものの消費量、それから内容のこと、その食費のこと、というやうなものを最寄りでいろいろ話し合い、人々がやつたのを纏めたりして家計の研究會に持つて行くといふことで、本部の研究會と最寄りで実際にそれをやつて見るといふことが図理して出来て行くわけでございます。その最寄り会といふのは本当に私共が実際に生活をする場所でございます。四、五人から十人位の少い人数でございすから、本當にお互

の事情を知り合うことが出来、人によってちがっている事情や特徴や足りないところをお互が持ち出し、助け合つて、ほんとうによい生活を勵んで行こうというので實際にいろいろなことをやっております。最寄り会は毎週一回、一月四回あります。今週は主に食に集中してやる。その次のことを考える。その次は家計のことをいう工合に、集中してやることにしております。そうしてその中でそれ／＼特徴のある方が、わたしはそれでは衣のほうの係りになりましょう。という工合で分担してやつて来たことを又最寄り会でし、又皆さんとそれに合せていろいろ勵まし合うというようなことになつております。そうして一年中の衣類の整理などをその日に持ち寄つて簡易クリーニングをしてしまふというような實際の協力等やつてゐるわけでございます。私共が協力によつてこの社会を豊富にし、お互の様々な苦しい生活も協力によつて解決したいという気持ち、そうしてそれの實際に出来るところが最寄り会ということになるわけでございます。すけれども、そんな気持ちで、どんな協力によつてやつてゐるかということが今度の展覧会にもいろいろ出てありますが、そのなかに友愛セールというのがございます。これは友の会が出来た初めからやつておりますが、それ／＼の家で不用になつたもの、例えば子供靴とか、又よ／＼から貰つた品で人に譲つてもいい、というようなものをお互に本當に安い値段で分け合う、お互の用に役立てるということ。で家計をうるおし、物も生かされるし、お互の友情に本當に感じて解決するということ。を初めからやつておりますが、その友愛セールに予約式のものがあります。それは各自が自分の家では今年はどういう衣類を補わなければならぬかという計画を立てます時によ／＼に譲つてもいい人があるかも知れませんか。何がほしいという希望をお互に出しあいます。するとそれをみて、自分の家の物を調べた時に、譲つてもいい物があれば誰さんに……予約で友愛セールが出来る。けれども實際に見てそれが気に入らなければ無理にとるのではなくて、気に入らないとか、大き過ぎたり小さ過ぎたりし時にはそれを別の方に出します。他の人が見て間に合せるということになります。そういうような予約式の友愛セールがあります。それから又リレー式の友愛セールがあります。今度の展覧会で、オーバーのリレー式が出ておりますが、ある家で

とて、いいオーバーをお父さんが英國から買つていらしたのを子供が着て、それから御知合に譲る、先から先とりレィ式に友愛セールのをしたのが、実物がまだ残っているのです。そんなことで戦災にあつて戦後五年間に衣類の全部を家族八人の衣類——その友愛セールので補充したという例も出ております。そういうことで衣の解決をしたりしております。

それからこれと展覧会に出ておりますが、協力の衣類整理工場があります。何処かに工場があるわけではなくて、主婦の工夫と協力によつて最寄り会、又は各家庭がその工場になるわけです。ある主婦は職業をもつてゐる。又ある主婦は不健康でなかくそれをやつて居られない。衣服についての整理などは、ずいぶん時間がかゝるが、一方には割合に時間もあるし、いい技術を持ち、経済的にも仕事のほしいというようない人がありますので、こういう両方の協力で、最寄り会で行く。一日中の衣類の整理、季節の衣類の整理、又廃品の更生というようなことがそんな工場にして最寄り会で出来て行く。さつき沼畑先生のお話で、洗濯の労方のお話もございましたが、古田谷のあるお家に洗濯機がありましたのを最寄り会で日を決めて使ふというようにしてやつております。なかく洗濯機は一遍に一軒の家で買ふというよりは、遊しから——こゝに（雑誌を示して）使用時間のことや労力のことの統計等が出ておりますが、ずいぶんその為には時間が節約され、労力と本当に少なくて済む。最寄り会で四人なら四人が使ふ日をお互に決めて計画を立て、やるように致しております。そうしてちゃんと誰さんはその日というようになつておりますから、洗濯の計画も自然にできていきます。一回の使用料をこゝでは十円という安いものでしております。

それから季節の衣類整理というようないことは、和洋服の仕立替とか、セーターの編み替、フトン作りということも最寄りで、幾人か組んで各家を廻つて歩くというようにしますと、一人でボツ／＼やつてゐるよりも助ました合つてよく出来る。それから特に技術のある人は洋服の仕立替などを、さつき申しましたような時間のない人に最寄りですて上げるようないこと——こういうようにして、人にして貰つたり助け合

つたりするにはどうしてとちやんと計画を立て、行かなければならない。それから展覧会の更生のようになると最寄会です。各家庭でワイシャツの着なくなったとか下着類などを、何かに直したいと思つて一軒々々ではなかく、出来ないからいつの間にか木口山を作るといふことになりす。この木口山を集めて、仕事のほしい人の手で更生品を作つて、それを友愛セールで売るといふことをやつております。その作品は展覧会に出ておりますが、どこの家でもほしくてなかなか出来ないもの。例へば室内ばきというなどはほしくと思つがなかく、私共と作つてゐる暇がない。これと技術のある人、最寄りですのがある人が作るとたやすく出来ます。ゲートルの古いのを集めたりしたのできれいな室内ばきが出来て今年は私とそれぐゝ家族の者の室内ばきを友愛セールで一足五十円位で買つて安心しました。その他お茶壺子とか雑巾などもなかく、さしたいと思つてと暇がない主婦がございますから、最寄りであればあさんなんかで暇のあるところではやういふものをどんどん下さつて、五枚綴つたのを五十円位で友愛セールではほしい人は買う。館裏下の木がしたのでマツトのようなのを作るといふようなこととやつております。こんな工台で、とにかく協力して衣類のことなど解決して行きますし、それから食事のことなど今度の展覧会の場合のように本當に夕方遅くまで休めなければならぬ時や、目台の方に出て行かなければならない毎週火曜日の定例の東京友の会の日などは、青年部の人達四人ほどで協力を炊事を休つておいてくれます。朝客れ物を持つて行つてそれを出しておきますと、帰りには調理した物を頂いて帰れますので、安心して夕方まで休むことが出来ます。最寄り会の中でも常備食品を作つてお分けています。又今度のような展覧会の時と最寄りで助け合つて休む人を出して上げるといふようなこととやつております。

大分時間と過ぎますからその位にしておきますが、とにかく一人では解決の出来ないことを本當に協力によつて解決して行く。これは私共のほうの例でございしますが、それぐゝのところどころでいろいろな協力のいろいろのことが本當に解決できていったらいいのではないかと思つております。

八、家事の協同化について

石井 じうもありがどうございました。今お話がございましたように、友の会では会員の方達の間で協力して困難は向願と解決して行つていらつしやるわけでございますが、そういうことが實際に行われていないところではとつとそういう奥について大いに考える必要があると思ひます。

先程脇本先生のお話の中でも、家事労働を社会的なほうに廻さなければいけないのじゃないかというお話がございましたが、そういう奥で野村さんから、家事の協同化と申しますか、グループ活動をもつとひろげた意味のものについてアメリカで見聞なさったこととおありだと思ひますので、短い時間では無理と思ひますけれどもどうもお願ひいたします。

野村 テーマより少しズレがあると思ひますが、私生活協同組合のほうのお仕事をしておりまして、日頃一番世の中の下積みと申しましたような、いわゆるおみさんという人達を相手にして仕事をしております。私、日本の民主化とか、文化国家の建設とかいうことと少数のおえらい御婦人が出て行くといふのでなしに、いわゆるおみさんというような人達がどんなに民主化されて行くかといふことに一番大きな問題がわかつているのではないかと思ひまして、いつとそういうところに仕事の尺度をおききして考えております。非常に行動が狭くて、農村のほうにも地方に向かずに、自分の小さな地域に在るで協同組合関係の御婦人を相手に仕事をしておりますので、いろいろ粗粒な奥、間違つた奥とすいぶんあると思ひます。今日こちらに出席します途中、神田神保町の直ぐ裏におります知合の家に一寸寄りましたが、私は神田神保町の東京の大中心地にこういう生活をしている人があるといふことを始めて知つて呆然としたのであります。旦那さんが浅草の映画館のカメラを廻す技師で、奥さんと子供が四人でございまして大人暮らしでございます。どんな処に住んでいるかと言いますと神田の親本屋が沢山ある二階の二畳と四畳半でその畳の汚いこと……何といひますか、ほんとうにびつくりしました。そこでおみさんが、一生懸命紙

貼りをしております。自分はいっと三時頃までかかってやっている、主人は大体交際で勤める、早番の時は早く出かけるし、夜遅い時は遅く出勤する。主人が帰ってから自分と協力して紙貼りを手伝ってくれるのだというので、映画技師といえは相当な収入と貰っているでしように、それですらこんな生活をしななければならぬと思ひまして、胸がつかまる思いがして参りました。昨日と鳥山生活協同組合に一時間程度っておりまして。そこではおかみさんの婦に授産事業をやっておりますが、一時岗位の間に来るワ弄るワ、子供をオンスしたおかみさん連中がよくもこんななと思ひ程来るのです。チコリーイングム入れる紙ですが、……それを貰いに来る人が、洪水と言つたら極端でございませうが、それほど切実な客をこの眼で見参りまして、非常に生活の逼迫していることを感じたのであります。

そんな例でなしに、つい私の近くの外務省の寮に、昔領事をしていらした方の奥さんが、その近くではありませんが、近い所に炭のカツギ屋をしているのを聞いてびっくりしました。この間とそのアパートに住んでいるある奥さんに会いましたら、眠が眞赤になつてゐる。昨日は三時までミシンをかけていたからこんなになつたと言う。その旦那様は外務省に勤めておりまして二等書記官です。そういうのを相手にしまして、先生方がいろいろの研究……衣食住の生活をどんなに科学化するかというお話を上げて上げようと思ひまして彼等が必要としない。しななければならぬということとは知つてゐるが、講演会をするからいらつしやいと言つても絶対に来ない。燃料の使い方はこういうようにすれば合理的だといつても、そういう話があるからいらつしやいと言つても来ない。私達としては、そういうふうな家事のいろいろな科学的な処理を、下積みのおかみさんに浸透させてゆくと、何處のポイントがあると思ひます。とつと言ひ換えますと、つまり彼等は衣食住の最低の必要物を得てゐる以前の状態でゐるということが大きな問題だと思ひます。ですから問題は彼等に衣食住の最低の線を獲得させるという、そういう欲求を満足させるということが先ず提起される一番大きな問題だと思ひます。さらにそれをどういふように合理的に科学的に処理して行くかということを少し高い文化的な生活様式を教えて行くというのが段階ではないか

と思います。今申しましたようにその二つの願、衣食住の最低の要求を満たしたいという願、その願をつま
りもつと合理的な科学的な楽しい豊かな生活を実現して行くという文化的な願と申しますか、そういうったと
のとの関係をどう結び付けて行ったらいいかということに苦悩するのです。少しペダンティツツになつて
忍耐力でございしますが、私の読みました本の中に、ドイツの経済学者でゲオルグという人の書いた本があり
ますがその書物の中で、衣食住の欲望を満足させるという経済的な価値もございすし、さらに生活
を豊かにするとかよりよい生活をして行きたいという、人間の文化的欲求を満たすに必要な文化的価値に
ついて彼は免明に分析しています。その中でつまり経済的な価値といひますか、欲求といふものは非常に
強い、それがなければ人間の生産といふものが可能じゃないから、非常にその価値といふものは非常に強
いだけに非常に自分を絶対化する危険をもっている。自分を非常に……絶対的に自立している価値だとい
うふうに考える危険をもっているが、衣食住の最低欲求を満すといふ経済的価値といふものはあくまでも
より高い文化生活をする爲の価値を実現する手段である。そういう価値に奉仕する爲の奉仕的な意味を持
った価値にしか過ぎない。絶対に自分自身が独立して存在する絶対的な価値ではなしに、文化価値を実現
する爲の相対的な関係においてのみ意味を持つ絶対生活の価値だといっている。私は非常に面白いと思ひ
ました。先程生活が非常に困っているといふことを私は申しましたが、何か生活を科学的にしなければな
らない、文化的な生活をしなければならぬ、生活を豊かにして主婦の知識を増さなければならぬとい
う言葉に対して、困っている層の中のある人は、そんなことをいっても生活が出来ないから政治的に解決
しなければならぬといふふうに片附けてしまふわけですが、そうして政治的な解決が唯一の問題解決のオ
ールマイタイーのような錯覚を起す。経済的な価値といふものは強いだけに自分を絶対的にする。とブツ
シェが言っています。私達はあくまでやういふ経済的な欲望、やういふ価値を実現するといふことは、
より高い、合理的な豊かな生活をする爲にいろ／＼な物資を調達する奉仕の価値と相対的な価値であるとい
ふことを見失つてはいけません。やういふふうを考えて参りますと、私達はおかみさん連中に對

して科学的な生活を教えて行く場合にも、先ず最初に彼等が衣食住の欲望を満足させる何等かの具體的なものを与えなければならぬ、与えることを賣いて、その過程において文化的な生活を営む方法を教えて行くということがよいと思うのです。その方法に二つあると思ひます。先ず経済的な欲求を満足させるから、その過程において文化的な生活についての科学的知識を与えて行くという方法と、もう一つは、友の会などに入つていらつしやる、かなりの教育もあり、相當な教養もあるという方には最初からこの生活の科学化とか生活の合理化ということをやつて行つても大丈夫だ。講演会をしますからいらつしやいと云つても乗る。やういふことが同時に経済的な問題と結びついて行く。つまり家計の收入に何等かのプラスになるという二つの行き方があると思う。それを具體的に協同組合等でとり上げてゐる面から申しますと、これは非常に原始的な誰から教えられるたというのでなしに、又非常に小さな営みですが私は非常に面白い芽生えを見出すという気がする。と申しますのは、東京のある地域に住んでゐるおかみさん連中が寄りまして、主食の配給の時にお金が払えない——矢張りながら比処にいらつしやる方でも家族七人ありますと、配給という時に直ぐ現金が払える人は三分の一と思ひます。この主食のお金を払うといふことは非常に大きな問題です。——それでこの十人ばかりが寄つて、少しずつお金を令に應じて出し合ひまして、そのお金を基にして自分の所屬してゐる信用組合に預けて、それを担保にして繰まつにお金を借りまして隣り近所の主食のお金の払えない人に立て替えてあげてゐる。すると非常にそれが喜ばれて、主食のお金を借りて来るやうな人ばかりから吸多に倒すといふことはなさらない。今まで半年にしかなくなつてないけれどもキチ／＼返していらつしやる。こゝういふ話をききました。それが度重なると彼等は経済的に集會を持つやうになる。月に一度責任者などを決めて集會を持つ。やうして會議の持ち方というやうなことを自ら、誰から教えられるとなしに彼等自らが生活のやういふたものから學んで行くのじやないかと思ふ。やういふ時に私達が外から参りまして會議の持ち方を教えますとそれがスムーズに行く。

余談に言ります。この間とある婦人団体の會議に出席して発言をきいておりますと、會議の持ち方だ

けをカッと教えられた婦人団体の人達も、リーフレットに書いてある通りのまる呑みしたやり方を、手を挙げたりしてやっていらつしやる。あれは生活自体から学びとつたのでなしに、他から強いられて教えられる暗記して手を挙げたり発言したりするということが直ぐわかる。例えば会議の持ち方ということとで、会議の持ち方の練習をするからいらつしやいと言つてもそういう人達は来ない。けれどもそういうように主食の肉類を通じて会を重ねると、自然に学び取つて行ける。又あるいはそういう時に協同組合の婦人の指導者が多りまして、お米と肉類してあるいは御飯の炊き方を教えるということと可能でなし、あるいはお米の値段がどうして決まるか。一体お米の値段は誰が決めるかということと、金合を通じて教えますと、自分の肉類として彼等が学びとると思います。私は婦人の教養ということは何と本を讀んだりということが教養でなしに、生活の中から、お米の値段はどうして決まるのだろうかということとを究明する時に、それが本当の教養だと思ふ。單に本を讀む時間を多くするのが知識を高めることではないと思ふ。そういうふうにして、とうとう消費者価格が上がる。しかし百姓の供出価格はそれ程上らない。そのサヤはどこに入るか、政府に入る。それはどういうふうに使つか。そういうことから、輸入米との関係がどうか、税金との関係はどうかというようにすると、おみさん連中は、政治講話があるからと言つても減多に表ないけれどもそういうことから結びつけると自分の肉類として眞剣に取り上げる。私は政治教育といふものを何等の方法で経済的欲求を満しつつ、それを満す過程において御飯の炊き方はどうであるか。あるいはそれに関連した燃料の問題と話してい、と思ひます。文化的な生活、科學的生活はかくあるべきだ。政治とはこういうものだということとを教えられるのじやないかと思ひます。

とうとうはさつき申しましたように文化的な面から入つて行つて経済的な欲求を満すということとの結びつきをする。――神戸の灘の協同組合で、その主任の方は友の会の生活指導ということとで、いふ人よく勉強していらつしやるリーダーだったと思ひます。非常によく生活指導をマスターしていらつしやいます。いかにもそれが経済的な家計の収入を増すということと結びついてやっていらつしやる。例えばお料理

を教える、それはたゞ教えるだけでなしに、ジャガイモの炊き方はこうする……いろいろなことを本
当によく教えていらつしやいますけれど、それを通じて、例えば洗濯や、お料理の仕方を教えてそれを
覚えた人を直ぐお手伝いという形で、要求があるところにお世話なされる、すると、お手伝いに行くこと、収入
を得るということ、お料理が結びつく、この頃は町の小さな集まりがあると、時々注文がある、今日はお
客があるから……ということでは注文をしにいらつしやる。

それで講習料の一部を得ることがでさる。そういうことが非常に面白いのじやないか。ただ洗濯をする
のが合理的だということだけでなく、洗濯を習った人がお手伝いに行く。私は今の段階では生活の科学化と
か合理化ということは常にそういう経済的な要求を満すということ、一体になつて行かなければ、みんな
がついて来ないのが現実と思う。

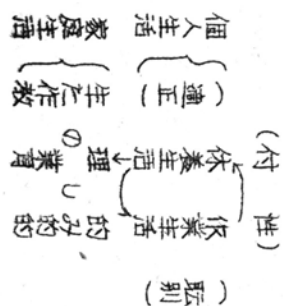
それから最後に、こういうふうな経済的な要求というものを満すことを通じての文化的な生活の在り方
を学ぶ方がお料理とか洗濯とか炭の使い方とか、ボツン／＼したのでは駄目だと思う。そういうものが
綜合された多面的な能力のあり方——とっと具体的な申しますと、協同組合でその他の婦人団体でもなさ
つてゐる後産——鳥山の組合というのは非常によくやつておりますが、こゝではお風呂と市価より安い。
それで採算とれるかという、月純益が六万円、それから洗濯などと非常に安くやつております、白
洋舎と直結してやつておりますが、三割手数料をとつて、その近くの困つてゐる人を専ら員として一万五
千円の給料をやつて五千円残る。その五千円が後産事業の資金として貸出されて行く。つまり後産とい
うのは、出来上つたものを注文主のところを持つて行かなければお金を貰えない、それじゃ、おかみさん達
向に合わないから、おかみさんが組合に仕事を持つて来た途端に組合が出す。それは洗濯とかお風呂の配
置から出る。取扱いなどと、東京ではまだやつてゐるところはありませんが、埼玉ではやつていまして、
男の取扱いが五十五円、子供が二十五円位でそれで結構採算とれるやうです。組合員以外の注文を取ると組
合の人に待つて頂くことになるし、従業員を置やさなければならぬので今は組合の人だけだが、一万五

十の給料で二十四月に残ると言っておりました。このように、経済的な要求と結びついて多角的になさなければならぬ。すると自然、組織が生れる。組織的な訓練を婦人にやって行く際に、たゞ技術としての合理化を教えるだけでなしに、婦人同題会議の家庭生活委員会などで、隅谷先生が言っているやいですが、私はそこで婦人の自覚を持つて行かなければならないと思う。私達が家庭生活を合理化して、どうして炭一切れを節約出来るかということとは充分知らなければならぬが、それと同時に私達主婦が立っている地盤がどうなっているかということ、すなわち日本全体の経済機構がどつちに向つて走っているのかということを知る必要があると思います。国民の生活が案になるように汽車が東に向つて走っているのか西に向つて走っているのか、若しと私達が東京に行く汽車に乘る筈なのに九州に走つて行く汽車に乘っているならば、いくら汽車の中の窓をどうしよう、カーテンをどうしようということも考えても、汽車自体が私達の生活を案にしてくれる方向と逆な方向に向つて走っているとすれば、生活の合理化がどれだけ役に立つかということが大きな同題と思う。だから最後に隅谷先生がおっしゃっているように、私達の国民所得が戦前に較べて一年間の総所得の中で個人生活の充實向上に差向けられるのが犠牲にされて、資本蓄積の爲にふり向けられていることが顕著に現われているという基本的な同題を具體的活動を通じて主婦に批判する能力を与えて行くということが必要じゃないか。その目標を忘れて技術の面だけでこれを指導するということは結構ではございますが、一つの片手落ちになるのではないかと思つております。私はその気持で、日頃、つまらない仕事をしながら、協同組合の仕事に携つております。

九、家庭生活を楽しむするためのには

石井、どうもありがとうございました。では最後に今先生からお話を伺いたいと存じますが……レクリエーションについて御研究になつていらつしやるようなお話を伺つておりますので、そういうこと、か、あるいは新しい文際の仕方というようなことを含めて、家庭生活を楽しむためのいろいろな御研究についてのお話をお願いいたします。

今 家庭生活を楽しむする方法についてということですが、これは極めて範圍が広く衣食住すべてに互るので。これは私の個人的な考えでありますけれども、一番重大なことはこれまでの家計費の分配の仕方だと思います。大体一般に食物費と税金と、これだけ差引いて後を着物、住宅その他にするかどうと思ひますが、これは第二次的なものではないと思ひます。食べもの、費用と税金の費用、これを差引いて後をどういうパーセンテージにするかということが生活の創作じやないか、粹にはまつたこととなると気分が行詰るので、そこから辺から解放して新しい会計予算の立て方を指導して行く。あまりこまかく衣服の費用、住居の費用などと規定づけられますと、生活がどうしても人並な味無しのものになる。それが往々にして悪く行くと困難的な生活になる。民主主義が充実にきてゐる。今日の生活のあり方としては、その奥でまず一つ新しい生活を考え出さうじやないかと思つております。それから生活の楽しみというのは、



生活全般の余裕であります(一)図を示す。こういうように家庭生活という生理的な部面と作業的な部面があります。生理的な部面、作業的な部面といふのは徹底的に台理化が出来る、合理化してもらわなければならぬ医学

的に經濟的に進まなければならぬものである、それとこの楽しみとを調和がないうちに計畫づけて行かなければならないというように考えたわけであります。

申し上げるまでもなく個人生活だけを考えますと、個人生活には休養生活というものがありません。各個人に適正な休養生活というものがあつて、こゝから特色づけられております。休養生活の中にまた楽しみがあるのですから、楽しい生活をするということは一概に見ることができないというわけであります。それで楽しみということとは、日本では大體レクリエーションという言葉をいわれていますが、アメリカの雜誌などを見ると、リラクゼーションとレクリエーションという言葉をいわれています。この二つの休養のあり方がどういうふうな違ひのかごまかく知りませんが、リラクゼーションというのは本能的な休養、レクリエーションは理性的な休養のあり方ごういふうに考えたいと思ひます。この方向をどうするかというところが今私の専門的な学料であります。レクリエーションとはどうも欠陥がある、強制的にやられるやうな面も見られます。あくびして日向ぼっこをしていた方が適切な休養になるのに、号令を掛けられて唱歌を唱いましょう。こういつて、強要されると、個人的な生活から要求される休養というものが無視される奥があるのではないか。こゝに一段踏み込んで、このレクリエーションの解釈を新しく追究してみなければならぬのではないかと思ひます。

それから家庭の中を皆が一緒に楽しむ機会について申しますと、各個人の生活というものはそれぞれ特色を持っておりますから、それが家庭の中で合致する機会は食事において、それからお茶を飲む廻らんに於いて、おやつとか食物という仲介物があつて、これは少しづつあるかも知れませんが、始めて家庭的の楽しさがあるべきはすのものはないかと考えます。食卓の構え方、廻らんの座席の構え方というところに限られた意味の楽しみがあるのだというふうな考えを申します。

それから衣食住の面を言いますと衣食住にはそれ〴〵生理的な面、その他實際的な面がありますが、たとえば着物を言いますと、租服と洋服とくらべて見ると、租服はどうしても困難に因われたような生活の

状態をとるといふ呉を、私は拒否したのであります洋服の方はレクリエーションに副う特産を持つておる。どういふ呉かといふと、和服は形がきまつていて、そうして呉服屋さんがきまつた形にきれを提供する。柄を提供する。それを買ひ取つて和服を作るが、着え方がきまつておりますから樂しみの領分が少い。洋服の場合は生地を買つて来てそうしてそれを自分の好みの形に仕立てる。とにかく自分の趣味というものがある程度まで加算されて仕立てられる。そうして和服を着たお客さんが揃う会合の場合と、洋服を着たお客さんが揃う会合の場合と比較すると、和服の場合は自分の帯よりもある人の帯が高いとか高くないとか、興味が純粹なレクリエーションの樂しみでなくなりまして。洋服の場合は大体三マイルとか四マイルなればならないので、そのきれ地の値段はきまつてますから、それをあの人はどういふふうに柄の恰好をしたかとか、ボタンのつけ方をどうしたとかいふようなことを互に見合うので、レクリエーションの交換がでさる。こういう特産を持つてゐるのではないかといふふうに考えてゐるのであります。こういうふうに和服という因襲を去つて洋服にして行くべきであります。

それから食べものゝ場合は栄養が第一でありますけれども、しかしお料理をする上において、どんなにおいしく食べさせるかといふ呉から、樂しみの呉に入つて来るのではないかと思ひます。食べものはリズムです。すから、一週間の献立に変化がなければなりません。味その他のリズムを考えることが食物の一つのねらいとなつて、樂しみに転化しなければならぬと考えます。それから日常の食べものゝ場合をなしに、食事に計画性を織り込んで一層立体的なりズムあるものになければならない、料理のとりに方がありますけれども、私は行事といふことを考えたいと思う。これもあまり社会的にきまつた行事の場合には、單調に流れるおそれがあります。社会的な行事も多少入れなければならぬでしょうが、一軒の家としこの行事、たとえば家族めい／＼の誕生日とかいふような具合にして、その他にも一月一回なり相當な予算をかけて、特別樂しい御馳走を食べるといふような期待を皆に持たせるようにしなければならぬ。それからこれはさつき申上げた、食卓を中心として、一軒の家庭生活をレクリエーションとして展開させ

る部面をすから、食卓そのもの、茶の固、食べる場所である食堂というものを、可能な範囲でレクリエーションという観点からの整備をするということが必要であります。

それから住宅でありますけれども、これも生理的、能率的な方面から十分充実にしなければなりません。その上に私たちの気分的なレクリエーション、リズムをうまく取入れこくれるような施設をしたい。これが私の体験では、部屋の中にかけるお金の分量と、庭にかけるお金の分量と比較すると、部屋にかけるだけのお金を庭にかけると、相当楽しいものができると考えております。将来の建築は、今、戸山ヶ原に建っているようなアパート建築になつていくでしょうが、その場合には箱住いになりますから、室内だけに楽しみをとり入れるような施設即ちアメリカで言われている本来の室内装飾の面から美しくされて行かなければならぬ情勢にはじめてなつて来る。これまでの日本住宅では野原の上、即ち庭の中に住宅が建つていて、外に綺麗な景色があるのを装飾は無駄なものというような考え方がありました。お花を生ける柵を簡単に飾るということが室内装飾という名前で呼ばれておりましたが、本来は装飾などはない方がいい、部屋の中は簡素にした方がいい、と言われていたのをす日本の気候、風土の関係から、レクリエーションは景色のきれいな室外とする習慣になつていて、室内はきちんと行儀よく整えてあります。近い将来都市の住宅はコンクリート式のアパートになつて参りますと、どうしてもアメリカなどを提唱されております。そのような室内装飾、壁紙というふうないろいろなものを本格的に追求して行かなければならぬと思ひます。それにしましてはアパート式の住宅と、郊外などに孤立的に建つております住宅などと平行して取上げるものでしようから、大変複雑な過渡期が室内装飾に現われて来るのじやないかと予想されるのであります。それからさらに飛躍的に考えますと、私どもの気分が楽しさの根底なのでありますから、いろ／＼な私どもの精神の底にわだかまる不快なこと、心配なことがあつてはならないということはもちろん、これを取り去るように導かなければならぬと思ひますが、現在の生活の病氣は迷信と私飾と虚栄、これがあつたのでは生活の楽しみにならないと断定します。迷信というのは何かというと、平安朝の室命

的な思想でありまして、私儀作法というのはエチケットではない。これは封建社会の身分觀念、特に江戸時代に完成した気持であり、これに対して着物が要求され、それから家屋が要求される。藤原時代には迷信に対して着物が要求され、家屋が要求されたのであります。虚栄の世相は第一次世界大戦まで展開されましたが、日本では明治から終戦まで虚栄が展開しました。この虚栄の精神がどういつところから来たかという、収入相当の生活に衣食住の生活の費目のパーセンテージを握ったというところにある。こういうようなことが生活の底に含まれておつたのではどうてい人間的に朗かな生活にならない。これは在来の生活に含まれた病氣であります。

今日の生活意識の中心は虚栄であるといふのである。

虚栄

礼法

虚栄の源流
上巻——中巻——
下巻——

虚栄の源流

虚栄

虚栄の源流

虚栄の源流

虚栄の源流

虚栄の源流

日本人のつけ景氣的な朗かさとは違いがあると思います。

社会保障制度が整備しているかどうかによつて朗かさというものの質の違いが現われて来るのではないかという考えを持つているのでありまして即時実行してもらわなければならぬと思います。私はどうも年寄りになりまして、行く先がどうなるかというのが心配の相当大きな根底であります。そのために子供に

妙におせじを使うとか姑と嫁との関連をおもしろくないものにしてある。社会保障制度が完備して来るならばこのようなことは幾分解決されると思うのであります。

このような因襲的な觀念が払拭されること、將來の保障をつくつていただくこと、そうして朗かにのびのびと生活を樂しめるような方向へ伸して行きたいというふうに考えております。まことにませんがこのぐらいで石井、ありがとうございました。

これで一通りそれぞれの専門的なお話を伺つたわけでございます。予定の時間も延びておりますけれども、体養の必要なのは家事労働ばかりではないと思いますから、五分ほど頭を休めて、それから討議に入りたいと思います。

十 討 議

石井、大変有益なお話を伺いましたが、一応衣とか食とか住に分けまして御負担頂いたり討議して行きたいというように考えておりましたけれども、時間が遅れておりますので細かく分けて話を進めることが無理かと思ひますから、今までお話頂きましたこと全体について、家庭の主婦の代表の方から御負担や御意見を伺うという形で、そういうことを中心にしてお話を進めて行きたいと思ひます。

先程から、例えば和服が大変不便だというようなお話も度々出ておりました、私共坊いしております者はやはりそういうことを感じておりますけれども、又一方和服の長所と言いますか……なか／＼洋服のほうに移ることが困難な点もあるんじゃないかということも考えられますがその点について熊岡さん如何でしょうか？

熊岡、とくに日本婦人有権者同盟の代表とお思ひ下さいませんで、町のおかみさんの代表と思つておきをお願いしたい御覧の通り和服を着ておりました（笑聲）、不便なことを痛切に感じておりますけれども、私共の年輩になりますと洋服を新調しますのは一冬服の新調になるとオーバーから全部揃えたら大変だと申します。又洋服だと、どなたかのを拝借して行きたいと思つても拝借ということがきかないが、和服でござ

ざいますと、私共焼け跡の村みたいなところに住んでおりまして着物の数は持つていないから、今日はこういう処に行くから黒紋付を貸して下さいと拝借出来ますので、その点は便利で、経済的にも負担が多いとも感じないで、昔の着物そのまゝ焼けた方などから拝借しております。

もう一つ着物から感じましたことをですが、上級学校を卒業なさる方が、着物を借りたとか袴を借りたとか言う。今さら着物や袴を着なくてもいいように先生方が御指導して頂きたい。皆様袴をなければ卒業式に行けないというのでお母さん方が困つていらつしやる。

それから洗濯機械のお話伺いまして、とても私共の財政状態では及びもつきませんけれども、団体を月賦販売にして頂くというようなことは出来ませんでしょうか。

沼畑、洗濯機械は家庭の必需品であるが、何故こんなに高いかと検討したら、税金が非常に高い。ついこの間までは税金は大割、その前は十割かゝつた。ですから税金を撤廃すれば今の洗濯機より安くなる。安くなれば普及する。それから今おつしやつたような月賦販売のこともありますが、さっきのお話のように共同でやるのが一番よろしい。

一番安いので菅原を造つてゐるのは一万八千円、その中税金が五千円位でしょう。その一寸上になりまして東芝のソラ、これは三万円位、それから日立を造つてゐるのは四万円です。それから今われ／＼のところを持つて来ているのはずつと安く、五、六千円位で出来そうだということですが、これが出来れば家庭で安く使えると思います。

富田 値段によつて性能がちがいますか。

沼畑 大体ギヤパシティーの問題で、性能のほうは大同小異です。

桑原 じゃあ、小人数ならば安いのを間に合いますね。

沼畑 充分間に合います。むしろ大き過ぎ、個人では厄介ではないかと思ひます。東芝のソラなどは大きくて……。

熊岡、それは電燈帳から？

沼畑、そうですね。家庭用のものはほとんど電燈帳で、電力も百ワットの電燈の程度です。それから今私
のところを持つて来たのは四十ワットの電燈で、それが完成すれば衆に、使い易い。四、五千円なら方々
でほしいと言つています。

ただ今、野村さんの問題一々御だもな御意見で、われ／＼空想的な討論をしているのではないかと感じて
いる。われ／＼も一歩手前にあるという心細い状態ですが、そこで、どこを目標にするかということが重
大な問題です。私、今安本さんの生活用品の調査をしていますが、最近では文化的な生活を目標にしまし
ければならぬというので、電気やガスの問題も被服の問題も、ある面から見れば贅沢過ぎるということにな
るけれども……この会なんかも一体どこが目標かということが非常に問題です。

田中、洗濯機のような費用のかゝるものゝ施設が必要ですね。けれども、今の段階では野村さんなんかのお
話にあつたような協同活動で相当カバ―出来る面がある。洗濯でも、協同活動で衣服出来る面もある。一
番実行し易い段階があるんじゃないかと思ふんですね。全部の主婦が毎日何時間も使つて洗濯するのはな
く、引受けあつてするということを経済的な面をカバ―するという方法も同時に考えたいと思ひます。
沼畑、燃料問題なども戦争中は、これだともう違ひない。御飯位は共同炊事をさせようじゃないかとい
う案が出ましたが……。

田中、戦争中は協同活動が割合に行われておりましたね。

山本、けれども協同活動を効果的にしようと思つたら、人間の力に代るものを入れなければ意味がない
洗濯でも一人を二、三十分のものなら洗えるけれども、一人を二時間も三時間も出来ない。共同炊事の矢
張もつまりそれです。一人の人が六人分……少くも一人の人が二、三人分に代る能力が確保されなければ
ね。どうしても共同する上においては一人の人が何人分か出来るという設備がなければ永続きしない。と
くに洗濯は機械がなければほとんど無理です。

田中、この前、ある団体の集りに聞いたんですが、洗濯は主婦が楽しみで、毎日緩竿も干したものを取入れる快感というものは言うに言われぬ気持ちだということと、共同作業を折角お膳立したのを否決してしまつた、ということとで、そういう意識の面の阻害がまだずいぶんある。だから同時に意識の面の啓蒙と両方を行かなければね。

野村 協同化とかいうようなことは、やつぱり社会化ということね、それに考が並行しなくちゃ、ずいぶん失敗するでしょうね。

沼田 共同炊事など、ある処で、燃料が経済にならないというのを行つて見ると、器具と人数が合わない。家庭であるからせい／＼三人か五人家族です、それから共同炊事と言つても十五人か二十人程度です。それ以上になると家庭の器具は合わない。

桑原 共同炊事の場合、よく考えるのですが、嗜好の点ばかりでなしに、御飯がコワイために胃腸の悪い人はおなかをこわすということもあると思います。たゞ託児所なんかは共同で五、六人グループを作つてやるのはずいぶんいゝと思います。私、子供を育てた時は空襲のひどい時ですから閉口しました。あの時の苦しかつたことは忘れられないので、託児所だけは何とかして、こちらあたりをお世話して頂いて出来たらと思います。

桐判、友の会でも最寄を母親が代り合つて一週間の中何回か分担して子供さんの世話をすると、ことをやつています。

桑原、子供というものは多勢を置いておけばそう手間もとれない。

山本、わたし、よく考えるが、託児所ではなく「託児日」というものが出来れば……。

桐判、その日はほんとうに主婦が子供から解放されて、外出もできるし、他の仕事が一生懸命出来るというふうなことになるばいゝですね。

桑原、子供の為のマイナスというものは大きい。見てくれる人があると邪魔されないでいゝが……。

香川、同化ということですね。やつぱり知識程度とか職業とかいろいろ／＼な家庭の事情とか、ずいぶん違ふと思います。ある工場なんか、同じ生君様式の処ですし、同じ一角にかたまつてゐるし、こういう処は職立でも一絡にしたらどうだろうかと思つたが、そういう計画を上の人希望するのですねども、實際さうゆうことをしようと思つた銘々の取工さんの家ではそれを反対する。さういうことをしておかなければおかみさんの用がなくなるから困る。ひままでひまで仕方ない人は合理化してゐれば／＼自分が忙しいものだから合理化したほうがいゝとばかり考えるが合理化しては困るという空気もある。

山本、洗濯も、楽しいばかりでなくて、せめて洗濯をしなければ仕様がなないという人がある。

駒田、それは田中さんも私も住んでゐるアパートですが、私が、うまく行けば白洋舎と協力して、風呂を立てて貰つてそのお湯を使つて洗濯して貰つて……と考へた。それをダンブウオツシエを考へたが、あれだけでも出来なかつた。例えば一コリー二十五円を安いと思つたけれども、その時は石けんが高い時だつたが、それでも自分が内取で付いて石けん位買えるというんです。どうしても成功しなかつた。

山本、江戸川もさうです。

駒田、江戸川が始めて、見に行つたのです。白洋舎が高輪にも始めて下さいというのでやろうと思つたがとう／＼出来なかつた。

田中、さうしていろいろの設備が便利に出来ておりますから時間はあるが、いわゆる雑談の時間があつて……結局生活を合理的にするという啓蒙が足りない。

駒田、それからもう一つ時間のことですが、北海道に行つていろいろ聞いたのですが、進歩的な奥さんがいろ／＼考へ出して、その時間を本を読んだりするとお姑さんが機嫌が悪い。不合理でも一日中何かやつて居れば、うちの嫁け付くと言う。ラジオの前に座つていてはいけならしい。さういうことは田舎ではずいぶんあるらしい。

田中、家庭の民主化ということが根本的な問題になつて来るんですね。私達のほうで、主婦が家庭でし

こる労働を経済的に評価したらどの位につくかということを考えて見たが、そういうことは一般には全然考えられないですね

山本 私、前に計算したが、終戦前ですが、百円から百二十円の収入の人の七十八円から八十七円位になった、時間労働にしても繭物とか、ワイシヤツ縫いと考えるとその位になった。

田中 今でも家政婦の日当が百五十円という標準にすると三十日で四千五百円です。けれど主婦はそれ以上の精神的な重要な働きもしてますから、もつと——沢山になると思う。

山川 結局村でも非農家ですね、台所なんか改良するのは——。

田中 農業のやり方自体でも、昔からやつている百姓さんは改良しないで、戦後の百姓が新式をやつて

いる。香川 けれども農家は、婦人が経済力を持つているところでは、台所もいゝとなればすぐ改善する。

田中 都会の主婦の働きを評価する以上に農家の場合は農業労働と家事労働をしている婦人たちの働きをうんと評価する運動をしなければいけないと思います

勝本 主婦の仕事の負担は農村が一番重くて、それから都会の専業を持つている人。——専業を持たない家庭婦人の場合、時間を勘定すると十時間ということになります。外で働いている人の場合に較べて負担が重いとは言えない。非常に能率を高めるという必要はあまりハッキリしない。ところがこういう人が疲労を感じてないかと言いますと。私共の調査の場合ではやはり普通の専業を持つている男よりは家庭婦人のほうが疲れる。専業婦人よりは少いけれども普通の男の人よりは家庭婦人が疲れる。その原因は、一つは生活が縛られている。睡眠時間が少いというふうなことで、そういう面から来る疲れ、というものが事実あると思います。それからもう一つはさつさちよつと申上げたように、毎日解放される時間が少い、それで何か生活の形をもう少し動かすことが出来れば仕事の量は減らなくても負担は減るという行き方があるのじゃないか。この点はたしかに女の方が縛られているということから来ていると思う。それを縛つ

ているものは何かという封建的な考ですわ。それが今の世の中として多いのじゃないか……。

内藤 先程衣食住の改善というお話を伺いましたが、衣食のほうはやり易い。洋服に衣えて行くとか、脂肪をとるとかやり易いが、施設を含めた住のほうは却々改善できない。家を建てるのも一年かゝつて出来るか出来ないかということになります。借家住いをしてゐるのをこう直してほしいということを考える時に、それをやつてくれる人がないかと思ひます。洋服も、トランクに藏つてゐるのはシワになるし、掛けておけばほこりになる。組立式でも、柱に作りつけるのも、又お台所でも、直したいところは沢山あるが、改善施設を簡単にやつてくれるところがないので困るのですが、それは需要供給の関係で、需要がないからそういう器具が出来ないのか、又やつてくれる人がないのかわからないのですが、その点いかなものでしょうか。押入れを丁度いゝように段をつけたいと思つても出来ませんし、大工さんに頼むのは高いというふうな……。

田中、それは大工さんに頼めば出来ます。あゝ、いうものは案外他のものに較べると安い。私のところなんか長い間の懸案で、やつて見ましたら大工さんの日当三百円位で、材料費と、案外思つたほど高くなくて済むということもある。

相沢 やつぱり住む家でも、かくありたいということも大切で、住のほうをかくありたいというのを今度の展覧会でもしまして、最も関係の深い台所とか衣の部分とか食の部分というように、一つ々々関連したことを出しましたが、今まで住んでおります家をどんなにして住みよくするかという様々な工夫など、ずつと出ておりました、見て下さる方がこゝに來てやつと救われたと言われますが、子供の勉強部屋にする為には風呂場をきれいにして、子供達が主になつて直して勉強の場所を作ったとか、さまざま工夫ですが、実例が出ております。

それから十二坪の、これも普通の家ですが、子供が三人を夫婦ですけれども、何んとなくゴタ／＼して住みにくい家を、よく片附けたりすることに才能のある人が三人で行つて、一寸した工夫で、部屋の間には

子供の勉強する処とかいうような独立した処なども造つたという、本当によく出来た絵巻物等も出ておりました、新しく造ることも必要だけれどもさまたまの工夫によつて住みよい家が出来るといいやないかと思つております。

桑原 展覧会、どちらですか？

桐剣 目白の自由学園の校舎で（明日館）しております。

山本 昨日日本のタンスは深くて使いにくいから、規格だけでも変えてほしいと思つて三越、高島屋に行つて話して見たら、一つには大工さんと言いますか、メーカーのほうで「タンスはこういうもののどし」櫃の腕はたしかだ」という考え方を駄目だ。もう一つはそれを売販して特殊な大工さんに造らせるとやつぱり高くなる。工賃が上る。そうするとやつぱり人は安いほうを買いますものね。戦争前に大工さんに機能的な台所や戸棚を造らせと出すと、女中を三人も五人も使つていらつしやる方が買つて行く。「そうおつしやられ」ばそうですが、今直ぐ手をつける気になりません」と三越も言つておりました。問題は結局私がそのまゝ引返しておしまひにしたということもいけませんが、みんなが要求し続けられいゝ。又能率を考へて高いほうを買う人がない限り解決できない。

今、今の天工とか指物師をノックアウトしなければ講習会をやつてもなか／＼取返さきません。家庭の主婦に極力社会労働と家庭労働を同様のものとして認識させようということに私は苦悩しております。香川 デザインということね、無形の技術に対する評価、そういうことがちつともされていなければ進歩しないのも一つです。私医者だからそう思うが、普通注射して上げれば喜ぶが、注射しないようにデザインするといふふうな努力がちつともされない。

山本 この回の展覧会のような、そのまゝ火にのせたら錫の代りになる紙とか、温度計とか、あつたものが主婦の爲にあればいゝと思うが、日本のを見ますと、あの時でも方々から持ち込まれる機械器具というものは、ほとんどメーカーの端けの爲にあるようなものばかりで主婦の好しい、細いものはちつとも

替えてくれない。それはやつぱり逆だと思います。

桑原 そういうことを主婦も考えなければいけないが、戦争中の経験などから言うと考えた暇がない。いくら経済的に余裕があれば考えることが出来ない。そうすると時間の経過と労力の経過を考えるとお金を経済するには労力をかけなければならぬ、労力を経済するにはお金をかけなければいけない、やつぱりみんな経済というものはうまく行かない。

香川 私共も、うちなんか主婦が居らないみたいで、子供四人と私と共同生活をそこで女中を一人置くか置くまいかということ、考えたが、どうしても食べさせて生活させると四、五千円かかりますからその四、五千円を出来るだけ便利なものを買って出来るだけ簡単にしていよう、という時には外に食べに行きましようということまで人件費を織り込んで動いているんです。

桑原 だから家政婦というものも、普通の主婦の技術を特殊技術というほどではないが生かして、任せておくという制度が出来るといいと思います。そうしてその人によつてお給料も決めてね家政婦という職業が確立するところかも知れませんね。

山川 裁縫師とか料理婦とか特技によつてお一番下の雑役なんかは靴を磨くとか障子を貼るとか……。

熊岡 それから皆さんにお願したいのですが私のようなレベルの底い主婦は、法律の問題、政治の問題すべて知らない、一つ困ることにぶつかりますと相談に行くとところがない。家事調停とか警察とかまゝは行けない階級の人に、相談になつて頂く施設がほしい。この私も一つの問題にぶつかつて困っているがその方に相談しましたら人権擁護局に行けというがほんとうに主婦が困る立場に立つことがございまして頭を悩ますが、そういう所に良き指導者を教えて頂きました、そういう場合はどこに行つて相談なさいますかという場合だけでも考えたいと思います。

山川 それは一人が知つていても仕方がないので、常識としてみんなが知るように婦人団体などをやつたらいいと思います。

石井　まだお話し合い願いたいことはいろいろございますが、あまり遅くなりますのでこれ位で閉会にいたしたいと存じます。

山川　お忙しいところを大変長い間お話し願いました、ありがとうございます、私共の仕事の効果が上りますように今後共どうかよろしく願います。

発行年月日 昭和二十九年三月

発行者

千代田区大手町

労働省婦人少年司婦人課

印刷所

文京区駒込坂下町一一〇

有限会社 工文社

電話 (82) 三〇六三六
三一六六